

矢作川データベース資料報告

The report of the collections in the Yahagi River data base

小川 都

Miyako OGAWA

要 約

「矢作川データベース」は、矢作川研究所の調査研究で使用した資料のデータベースである。流域に関わる文献、新聞、資料は、それぞれのデータベースに登録されている。本稿では、1章で調査と整理の手順を示し、2章で調査資料に登録した「矢作川資料データベース」の内容を、調査研究成果と関連づけながら任意の分類ごとに報告する。そして3章では、本稿で用いた資料の分類方法や登録作業を省みながら、データベースから見える矢作川とひととの関わりを考察する。登録された資料を用いて、矢作川に対する認識や理解の歴史をたどり、川とひとの関わりについて問い直す作業は、矢作川の今後を考える上で重要な手がかりになると考えている。

キーワード：矢作川データベース、矢作川資料データベース、矢作川文献データベース、
矢作川新聞データベース、資料整理、資料分類

はじめに

- 矢作川データベースの構想と目標 -

矢作川研究所では、矢作川流域の環境の調査研究を続けている。人文学分野では、「矢作川とひとの関わり」を考える上で調査した資料を「矢作川資料データベース」「矢作川文献データベース」「矢作川新聞データベース」に蓄積してきた（「矢作川データベース事業」）。

「矢作川資料データベース」は、社会学や民俗学分野を中心とした調査資料のデータベースである。また、研究所の調査自体も矢作川とひとの関わりに関する資料の一つという考えから、聞き取り調査テープ、調査写真、研究所内でまとめた年度調査報告も登録した。このとき、研究所の生物学分野の調査資料は、年度調査報告類に分類して登録したが、今後、資料数の増加によっては、生物学資料の項目の拡充等、再整備することが望ましいと考えている。これら資料に加えて、通常業務内で入手することのできた参加会議の会議録やイベント配布レジュメも、今後の調査研究での活用を想定し資料として登録した。「矢作川文献データベース」は、矢作川に関する内容が掲載された文献（単行本、定期刊行物、博物館・美術館資料、行政刊行資料・郷土資料、論文）⁽¹⁾のデー

タベースである。「矢作川新聞データベース」は、矢作川関連記事が掲載された新聞資料のデータベースである。

さて、矢作川に関する資料は、すでにさまざまな形で収集され、成果報告や論文にまとめられている。特に、1960年代に入り矢作川に関する調査研究報告が増え、1970年代には流域の市町村史、県史の編纂がすすめられた⁽²⁾。流域環境の総合的な調査研究を目標とするとき、各編纂事業で収集された矢作川に関連する資料を把握し、この資料から「矢作川の自然史、社会史」を再構築することも重要である。しかし、そうした姿勢で資料を網羅的に収集する場合、収集と整理作業に時間を割かねばならない。そればかりか、視点の定まらない収集活動では、事実関係の解釈や歴史の検証に活用できるような資料を探し出すことが難しい。そうする間にも、民間に保管された資料は、世代交代に伴う改築・増築工事等で古い蔵や天井裏等から出され、処分される場合が少なくない。流域の暮らしにより近いそのような資料を保存するためにも、未収集の資料に接する機会を多く設けたいと考えた。その為、ここでは網羅的収集を選択せず、調査プロジェクトのテーマに即応した資料を中心に記録することにした。長期的には、調査の積み重ねによって、全流域の資料を記録することが望ましいと考えている。

続く1章「資料調査と整理方法」では、資料調査と整理の手順を記す。これは、次年度以降の調査・整理・登録に関する実務マニュアルとして位置づける。

1. 資料調査と整理方法

1.1. 資料の整理および登録に関する方針

資料調査は、調査プロジェクトのテーマを基本としながら随時おこなう。実物の収集は原則的にはせず、資料の形状や内容および、所蔵先の記録にとどめる。

1.2. 資料の借用と保管

1.2.1. 資料の借用

資料借用時には、資料借用書（資料1 稿末）を2通用意し、所有者と研究所で一通ずつ保管する。資料返却時に所有者の借用書と借用資料を交換し、返却の確認をおこなう。加えて、担当調査員は「資料使用承諾書（資料2 稿末）」に基づき資料の使用範囲について、所有者の承諾をとる。借用資料は、借受時の状態を撮影したのち、持参した箱あるいは袋に収納して運ぶ。破損のおそれがある場合は適宜、薄葉紙や綿布団（綿を薄葉紙でくるむ）で梱包する。

1.2.2. 資料の保管

文書資料は、接写による複写をおこなう。借用不可の場合は、その場で接写し資料の記録に務める。複写資料は紙焼きし、資料番号を記したファイルに収納する。寄贈資料は、中性紙製の保管用封筒に資料番号・標題・資料状態・資料の数量・所有者・備考を鉛筆で記入し、この中に入れ、資料保管庫に収納する。

民具資料は、写真撮影と計測をおこない、それらの記録は、資料番号を記したファイルに収納する。豊田市郷土資料館へ寄託あるいは寄贈した資料は、同館作成の資料台帳のコピーを研究所で保管する。その際、研究所でつけた仮番号を資料館台帳の「備考欄」に記入してもらい、かつ、資料館の整理番号を研究所資料一覧の備考欄に記入し、互換性を付けておく。

写真資料は、接写したのち紙焼きし、ポケットアルバムに収納する。番号や標題、ネガフィルム番号をアルバムの記入欄に記入する（資料3）。ネガフィルムは保管し、連番号を付ける。この番号は、ポケットアルバムに記入しておく。借用不可の場合は、その場で接写し資料の記録に務める。

聞き取り調査結果を録音したテープは、ラベルに調査日と調査対象者氏名を記し保管する。また、テープ起こし文書のデジタルデータを同じファイル名で保存する。

1.3. 資料の記録

整理作業順に番号をつけて記録する。番号は、資料所有者が保管した状態（封筒に入れる、ヒモで括るなど）を一単位としてつける。一つの番号を付けた資料に関する特徴を18項目⁽³⁾で表記し、これをファイル「矢作川資料データベース」(Excel)に入力する。このとき、資料の標題に使用されている漢字は、常用漢字に改変する。また、一括した資料群の中に、特記したい資料がある場合は、資料群の番号（=親番号 以降 親番）に下位番号（=枝番号 以降 枝番）をつけて、親番と同じく資料の特徴を18項目で表記する。その他、アルバムごと、袋ごとに親番を付け、アルバム内の写真や袋内の書類にはそれぞれ枝番をつける。

矢作川に関する内容が記された文献（単行本、定期刊行物、博物館・美術館資料、行政刊行資料・郷土資料、論文）は確認次第、書名、筆者、発行年などの基本事項に加え目次を入力し、「矢作川文献データベース」に登録する。このうち、行政が作成する事業成果は、これを資料として扱い、資料データベースに登録する一方で、冊子で刊行された報告書は文献扱いとし、文献データベースに登録する。さらに、新聞資料は「矢作川新聞データベース」に入力する。尚、発行部数が少なく、再版予定のない、取り扱いに注意が必要な書籍は、資料番号を付け、資料として登録するとともに、文献データベースにもあわせて登録する。

1.4. 資料の整理と使用

1.4.1. 資料の整理（図1）

資料には、記載内容を端的に示す短い言葉を付けた（例：矢作川のヤナ漁 図1参照）。さらに、登録結果を把握するため、この言葉を任意の分類項目にまとめた（例：矢作川漁業協同組合関連資料、矢作川のヤナ漁、漁撈、国・県の水産業関連資料、漁業に分類。図1参照）。

1.4.2. 資料の使用に関する注意点

資料は、矢作川研究所の研究資料として活用する目的で登録した。第三者がこ

NO.番号	借受状況	単位の番号

標題		

写真の標題		
.....		
年代		
.....		
*その他、写真に関する情報を、漁業に分類。図1参照）。		
.....		
番号-枝番号		
写真一枚毎の番号		

資料3 ポケットアルバムへの記載事項。

これらの資料の使用を希望する際は、所有者の承諾が必要となる。申請先は、所有者である場合と、研究所（代理）の場合があり、使用の際は、申請先の所定の方法で使用承諾を得る必要がある。

2. 「矢作川資料データベース」概要

2.1. 資料調査の経緯

平成12～15年度（2000年4月～2003年3月）の4ヶ年で、平成12～14年度 河川環境復元総合調査研究事業（通称古川プロジェクト 以下 古川プロジェクト）、平成13年度 『矢作川100年誌資料研究 第1集』 編纂事業調査、その他短期調査をおこなった。これらの事業の他、今昔写真比較調査（小川，2003）や、愛知県豊田土木事務所（現 愛知県豊田加茂建設事務所）関係者の方々と矢作川研究所の有志により開催された『「矢作川を語る」座談会』で提出された資料を調査した。調査内容と資料概

要は以下の通りである。

古川プロジェクトに関わる人文的調査としては、矢作川の河口から約44キロ地点左岸の豊田市扶桑町の地域史と河川利用状況を調査した。『矢作川100年誌資料研究 第1集』の編纂事業調査では、矢作川漁業協同組合（以下 矢作川漁協）の100年史編纂事業で集められた資料（矢作川漁協100年史編集委員会 芝村龍太氏調査による）の整理保管作業とともに、その他矢作川の100年を俯瞰できうる資料も調査、捕足した。さらに、平成13～15年度の3年間⁽⁴⁾に開催されたイベントや委員会の会議録⁽⁵⁾の収集、普通河川広沢川自然環境調査、多自然型川づくり検証調査で得た資料の登録をおこなった。今昔写真比較調査では、流域全体を調査対象に、個人が所有する写真を収集した。「矢作川を語る」座談会では、愛知県豊田加茂建設事務所管轄内⁽⁶⁾の河川行政に携わってこられた方々を中心に聞き取りをし、矢作ダム水没地区、伊勢湾台風（昭和34【1959】年）、47.7災害（昭和47【1972】年）、東海豪雨（平成12【2000】年）の記録とその後の復旧事業関連資料を閲覧した。

このような経緯から、登録した資料は矢作川漁協管轄区域⁽⁷⁾を中心とする漁業関係資料や、豊田市扶桑町の地域史に関する資料が多数を占める。整理した資料のうち、矢作川の漁業史調査および、扶桑町調査（古川プロジェクト）で得られた資料は、『矢作川100年誌資料研究 第1集』（豊田市矢作川研究所，2002）と「矢作川とひとの暮らし」（古川ほか，2003）にまとめた⁽⁸⁾。「矢作川を語る」座談会の成果は、『「矢作川を語る」座談会記録集』（矢作川を語る座談会事務局，2003）にまとめた。

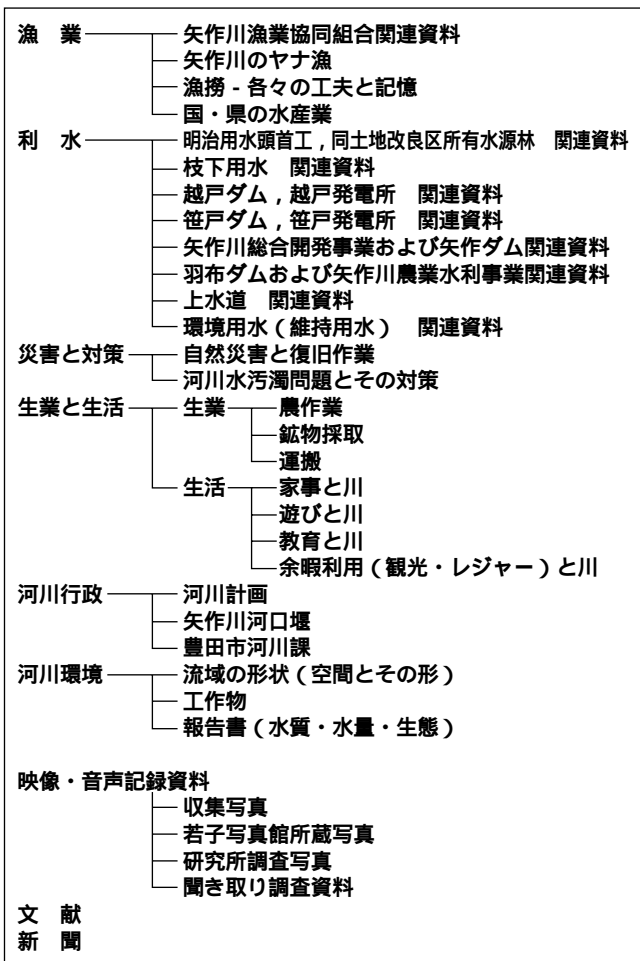


図1 収集資料の整理体系。

2.2. 「矢作川資料データベース」登録資料報告

分類ごとに、資料名の内容、調査の経緯と成果を報告する（表1参照）。表中の凡例は以下の通りである。

資料No.：資料の整理番号。文章中ではゴシック体で示した。

資料名：資料標題。元資料の標題をそのまま使用する際は「カギかっこ」でくくり、任意の標題と区別した。

形・質：書簡，新聞，一紙（パラ一枚）および、印刷，手書など資料の質を示した。

対象年：資料に記載された年。

内容・備考：分類項目に関わる内容を特に示す。

所蔵：数字 = 注釈番号参照，研 = 矢作川研究所，明 = 明治用水土地改良区，豊 = 豊田市担当課，不 = 不明，文 = 文献資料（各自検索）

2.2.1. 漁業

1) 矢作川漁業協同組合関連資料

組合の設立当時（明治35【1902】年）の記録はないが、昭和9（1934）年に初代組合長鈴木茂樹が漁業への功績を表彰されたため、これが新聞記事〔63～65〕になり、ここに鈴木の功績、つまり組合の設立経緯が記録された。また鈴木は鈴木宛の書簡〔46～60〕にも記録されている。その後の活動は官公機関の行政書類や刊行物に記録があり、そこには、昭和初期の稚鮎移送放流事業〔215〕や、昭和11（1936）年の漁業権取得〔191〕⁽¹⁰⁾、戦中戦後期の組織の解体と再編などが記されている〔202.204.196.199.210～214〕。戦後の活動は、漁協自身がまとめた多くの資料に、組織の主張や活動およびその変遷が記録されている⁽¹³⁾。このうち「矢作川漁業協同組合総代会議案」〔367, 368〕には事業成果報告⁽¹⁴⁾に加えて漁協が提起する河川問題が記されており組合の主張を確認できる⁽¹⁶⁾。また、昭和50年代以降（1975年～）の議事録には、調査と結果報告が多く記載されるようになり、漁協活動が環境保全へと移行する様子が窺える⁽¹⁷⁾。さらに、昭和54（1979）年から発行を開始した「矢作川漁協ニュース」のうち第6号〔114〕⁽¹⁸⁾や、平成13（2001）年テレホンサービス原稿〔637〕、カラーパンフレット「矢作川漁協釣場案内」〔156, 402〕⁽¹⁹⁾など、昭和54年以降からは広報活動に関する資料が増加している。これは、昭和54年に就任した第五代古橋高治組合長が遊漁者の増加を目的とするサービス事業を推進させたためである。さらに「矢作川河川維持流量 関係資料」〔251〕、「砂利採取に関する協定書綴」〔259〕、「矢作川河口堰 矢作川漁協」〔267〕は、矢作川漁協の活動とともに協議先の対応も垣間見ることができ、それぞれの懸案事項の、矢作川における協議の経緯を示す資料だと言える。これらの資料の内容は、「2.2.2. 利水 8）環境用水（維持用水）」、「2.2.4. 生業と生活 2）生業__鮎物採取」、「2.2.5. 河川行政 2）矢作川河口堰」の項で詳しく述べる。

これら組合全体の活動を記録した資料の他に、矢作川漁協平戸橋支部長が管理する支部関連文書〔278〕は、組合員の活動を確かめる資料として興味深い。組合の方針を受けた各組合員の実際の活動や、組合員の率直な要望が記されている。

2) 矢作川のヤナ漁

ヤナ漁に関しては、大野瀬・小渡・川口・広瀬・馬場瀬・豊田の各ヤナに関する資料を収集した⁽²⁰⁾。これらの資料は、河川管理者や農務省など第三者の介入がなく、漁業者自らが残しているという点で、当時の人々の矢作川との関わりをそのまま記録した、数少ない重要な資料

である。

小渡ヤナ資料については、明治33年～昭和初期頃（1900～1935）の文書資料〔291～365〕と写真資料〔250-4, 250-5〕を収集した。文書資料は5つの帳簿に大別され、これら資料には、ヤナでの労働時間や収益配分、さらに漁獲物の販売先が記されている。小渡ヤナ資料群は明治末から大正初期にかけての川とひとの関係を、ヤナを通して考察出来る重要な資料であると言え、全ての資料の清書と分析をし、詳しい報告へとつなげたい。

川口ヤナ資料については、江戸、明治、昭和時代の資料が矢作川漁協魚栄社支部聞き取り調査時に得られた。数は少ないが、川口ヤナが、江戸時代から一貫して周辺の住民に活用されてきたことを窺うことができる。

広瀬ヤナ資料については、帳簿類〔8, 8-5, 39, 43〕や作業風景写真〔365-8～13〕、漁協百年誌研究会参加者の安藤貞夫氏による報告文書〔634-4〕がある。また、中京大学古川研究室が平成7（1995）年に同ヤナを調査した際に調査員がまとめたノートや聞き取りテープを「平成7年広瀬ヤナ調査員資料」として保管している⁽²⁴⁾。古川研究室の調査結果は、『矢作川の伝統漁業と人の暮らし - 豊田市広瀬ヤナを中心に -』（豊田市, 1995）で詳しく報告された。

馬場瀬ヤナ資料については、前述した古川研究室の広瀬ヤナ調査時に収集され、広瀬ヤナ文書とともに保管されていた。小渡築文書同様、人工帳や決算書が見られ、整理後、詳しい報告へとつなげたい。

豊田ヤナ資料は、開業記念の集合写真とヤナ架設作業の記録写真〔343〕がある⁽²⁵⁾。

3) 漁撈 - 各々の工夫と記憶

かつて矢作川流域には、アユの集荷と出荷をおこなう出荷組合があり、昭和初期から20年代をピークに、料亭や名古屋市場に矢作川のアユが出荷されていた。中和出荷組合の帳簿〔166, 167, 168〕⁽²⁶⁾は、当時の漁獲量や販売権や流通システムの記録であると同時に、矢作川で漁業を営む人々が自ら記した記録であり、ヤナ資料と同じく、流域の暮らしにより近い資料として、貴重な資料である。また、この帳簿は、第二回矢作川漁協百年誌研究会で提出された。そのため、提出者や研究会に参加した漁協組合員ら、当事者による詳細な解説を記録できた。記録は「矢作川漁協百年誌ニューズレター 第2号」にまとめられ、関係者に配布された⁽²⁷⁾。さらに、研究会では、すでにおこなわれなくなった漁法や、個人的な漁業活動が語られ、同じくニューズレターにまとめられた。この他、参加者が描いた友釣り仕掛け図、川の呼び名地図⁽²⁸⁾や、安藤貞夫氏調査の報告書類〔634〕、写真

矢作川データベース資料報告

表1 矢作川資料データベース 主な資料と内容.

資料No.	資料名	形・質	対象年	内容・備考	所蔵
漁業					
矢作川漁業協同組合関連資料					
46~60	矢作川漁業保護組合(当時)鈴木組長への礼状	書簡	T1~S14	長年の内水面漁業と植林事業を讃える文面や、天皇家へ鮎を献上したことに対する、宮内庁次官と愛知県知事からの礼状	9
63~65	矢作川漁業保護組合(当時)初代組長表彰記事	新聞	M35,T5,S8,S9	初代組長鈴木氏が、漁業への功績を讃えられ、愛知県と湖沼河川養殖研究会からそれぞれ表彰を受けた記事。「矢作川漁業保護組合」設立(明治35年)の経緯、明治用水旧頭首工(明治34年竣工)への魚道布設(大正5年築)を斡旋する経緯が記載	9
93~102,106~113	矢作川漁業保護組合(当時)初代組長選挙記事	新聞	S2	鈴木氏の県議選立候補時の戦況	9
215	「愛知県水産試験場業務概報」(愛知県水産試験場,1926)	冊子	T15~S4	「矢作川増殖場」での放流成果報告。放流河川,放流月日,放流尾数,死亡率に加え関係漁協との協同で実施したことが記載	文
191	「農林公文類集 第四一冊 専用漁業免許」	縦綴・手書	T15~S10	矢作川漁業組合の漁業権申請に関する一連の書類。これら書類に、申請年度,許認可年度,漁業権範囲,組合規約および、漁業権取得の経緯(昭和6年申請,昭和11年取得)が記載	10
202	「全国漁業組合要覧」(全国漁業組合連合会,1940)	冊子	T15~S11	全国の漁業組合の一覧。事務所所在地,設立年月日,区域,組合員数が記載	文
204	「全国漁業組合名簿」(大日本水産会,1932)	冊子	T15~S11	全国の漁業組合の一覧。事務所所在地,設立年月日,区域,組合員数が記載	文
196,199,210~214	「内水面漁業資料」(水産庁漁政部漁業調整第二課,1950,1952)	冊子	S19,S25	戦後の漁業協同組合への指導開始にあたり、水産庁が戦時中の漁業会体制をまとめた資料。矢作川漁協は矢作川漁業会として昭和19年成立。その他地区。会員数,出資総数が記載	文
367,368	「矢作川漁業協同組合総代会議案」	冊子	S46,S49,S58~	総代会時に出席者に配布。前年活動内容と本年の活動指針など矢作川漁協の事業内容(稚魚放流,養殖,加工販売,環境対策など)が記載	11
396-6	琵琶湖から稚鮎トラック輸送	写真	S30年代	トラック荷台に3名が乗っている写真「びわこより稚鮎輸送」とメモ書き	15
401	「標識アユ放流調査報告書」	一紙	H1	矢作川漁協が平成元年におこなった調査の報告で、調査方法,調査結果(成長状況,日別回収表,回収地別回収数)が記載	73
114	矢作川漁協ニュース第6号	印刷	M35~S57	釣り場案内や、漁場整備事業,放流量が掲載。明治35(1902)年からの漁協の活動を記した年表あり	研
637	テレフォンサービス原稿	手書	H13	矢作川漁協のテレフォンサービス用原稿。当日の川の状況,ヤナ案内など	11
156,402	「矢作川漁協釣り場案内」	パンフレット	S63..H15	「矢作川漁協ニュース」に替わって昭和63(1988)年から発行。釣りポイントや、親売りの案内	研
251	「矢作川河川維持流量 関連資料」	ファイル一括・印刷	S32~H11	矢作川漁協が、河川維持流量要請活動をまとめた資料ファイル。出席した会議のレジメや、活動に使用した資料など	11
259	「砂利採取に関する協定書綴」	ファイル一括・印刷	H7~H11	矢作,百月,越戸ダムで操業する砂利採取業者と漁協で締結した採取量・採取期間に関する協定書	11
267	「矢作川河口堰 矢作川漁協」	ファイル一括・印刷	H7~H10	矢作川漁協が、河口堰建設反対活動をまとめた資料ファイル。会議資料に昭和49年「矢作川工事実施基本計画」「矢作川河口堰建設事業に関する基本計画」「矢作川河口堰の治水計画について」など	11
278	平戸橋支部長有書類	縦綴・印刷,手書	S58~H13	支部長メモ,漁協からの通達や支部員会議録	12
374	「平戸橋支部 親売日誌」	ノート・手書	H13	矢作川漁協「古岸水辺公園川畔 親売販売所」の、平成13年の販売記録	12
367-18	「矢作川種苗センター」	パンフレット	S44	矢作川漁協が愛知県から移管されたセンターの施設概要	研
矢作川のヤナ漁					
大野瀬ヤナ					
367-18	ヤナの全景写真	写真	S40年代		不
小渡ヤナ					
291~365	「築引勘定帳」	横綴・墨書	M31..S3	ヤナの収支決算	21
291~365	「人工(にんく)記載」	横綴・墨書	M31..S3	ヤナでの作業日数や作業時間の記録	21
291~365	「魚類売揚帳」	横綴・墨書	M31..S3	一日の売上げや魚価格表	21
291~365	「諸色雑用帳」	横綴・墨書	M31..S3	ヤナの材料費や祝儀費など	21
291~365	「金銭出入帳」	横綴・墨書	M31..S3	一年の金銭の出入り	21
250-4	小渡ヤナ	写真	S12頃	ヤナ上での採取作業	9
250-5	ヤナ詰め所	写真	S12頃	詰め所と人物。人物は客ではなく作業員と思われる	9
川口ヤナ					
120	江戸期文書「御産業可納割付」	一紙・墨書	不明		22
121	「築の沿革」	一紙・印刷	S35~S54	福岡仲四郎氏が作成した戦後の川口築年表	23
122	「川口築場行く通路の件」	一紙・印刷	S42	農道使用に関して上川口区長と築組合長で取り決めた協定書	23
123	「矢作川物語 築掛け30年の古老 福岡仲四郎さん」	新聞	S61	8月8日,中日新聞記事。大正期からのヤナと鮎漁の回想録	23
399	「築柵設置ノ件協定締結」	一紙・印刷	M33	ヤナ架設に関する五項目の取り決め	22
400	「川漁業御鑑札願」	不明・墨書	M10	愛知県に提出された築掛けに関する許可願	22
広瀬ヤナ					
8	帳簿類	ノート・手書	S17..H3	売上げ帳,事業日誌,人工台帳,販売魚類の仕入れ帳など	研
8-5	「雑記録」	ノート・手書	S16~S20	昭和16年と19年の総会議事録(昭和16年は設立総会)。昭和20年前後の帳簿	研
39	「昭和十七年度矢作川漁業広瀬築組合通常総会提出議案」	縦綴・印刷	S17		研
43	「山の神出納帳」	横綴・墨書	M43~H6	東広瀬町上切地区の神事に関する帳簿(供え物一覧,必要経費)	不
90	広瀬ヤナ組合タイムカード	一紙・印刷	H4~H6	ヤナ開業時の労働時間を示すタイムカード	不
	平成7年広瀬ヤナ調査員資料	箱一括		古川研究室の調査員がまとめたノートや、聞き取りテープ	研

表1 矢作川資料データベース 主な資料と内容(続)。

資料No.	資料名	形・質	対象年	内容・備考	所蔵
634-4	「広瀬築の起源」	入力原稿		元広瀬ヤナ組合長への聞き取り調査報告(ヤナ運営など)	研
365-8~13	ヤナ架設作業写真	写真	S50年代頃か	カゴ運び, ドウギ, ジャカゴ石詰め, ナラシ置き, タナス編み	研
馬場瀬ヤナ					
9~38, 39~42	帳簿類	横綴・墨書	T10~T14	材料の仕入れや人工の帳簿	不
豊田ヤナ					
343	開業記念の集合写真とヤナ架設作業の記録写真	写真	S58	ヤナ開業日(8月7日)記載。架設場所や架設作業の様子	25
漁撈~各々の工夫と記憶					
166	「昭和十三年五月 鮎出荷簿 中和出荷組合」	帳簿・手書	S13	集荷と出荷数・売上げ・換金金額・組合規範	26
167	「鮮鮎出荷明細簿」	帳簿・手書	S17	集荷と出荷数・売上げ・換金金額	26
168	「43年度清算表」	ノト・手書	S43	集荷と出荷数・売上げ・換金金額	26
	漁具	民具	S20~	アユ釣り竿, 釣り用具, タモ, 水鏡, など	豊
634	漁協百年誌研究会メンバー作成資料	手書など		川の呼び名地図, 友釣りの仕掛けイラスト, 安藤貞夫氏報告	研
150-2	水鏡とヤスを使った漁	写真	S30年代	川の中で魚を獲る男性。旭町	29
170	中和出荷組合選別作業	写真	S25か	アユを特大, 大, 中, 小の大きさ別に仕分けしている	26
365-4	捨て針(カ)で鱈釣り	写真	S40年代	捨て針で獲れた鱈(約40センチ)を持ち上げている	29
396-9, 12, 13	チンカラ網漁	写真	S30年代か	チンカラ網=投網。漁獲を網から取り外す作業風景	29
国・県の水産業					
192	「農商務省統計水産に関する五ヵ年調査報告綴」	縦綴・印刷	M35	大字ごとの漁業調査(漁具, 漁獲, 漁業者数)の記録。記録数少ない。補充調査か	10
203	「水産事項特別調査」(農商務省農務局, 1894)	冊子	M22~M24	海と河川の全国調査。一覧表に「矢作川」あり, 漁獲量, 漁期など記載	文
417~422	「河川漁業」(農林省水産局, 1930, 1931, 1933, 1934)	冊子	S5~S9	全国の水系別の漁業調査。漁種別に漁獲量, 漁獲高が記載	文
426~430	「全国湖沼河川養殖研究会要録」(全国湖沼河川養殖研究会1923, 1928, 1936, 1940, 1949)	冊子	S3,S11	研究会第6,10,11,12,17,22回の5冊を保管。第10回, 第17回の要録に, 矢作川における漁獲量や稚鮎放流量が掲載	文
208	「水産試験場成績総覧」(水産試験場, 1931)	冊子	T15	愛知県水産試験場が実施した「小鮎移植放流試験」の報告が記載	文
「農林公文類集」矢作川流域その他の組合の漁業権申請書類					
437	「農林公文類集 第四九冊 専用漁業免許」	縦綴・印刷	S10~S13	矢作川支流の巴川に設立された, 巴川漁業組合の申請書類。申請範囲: 巴川, 申請: 昭和10【1935】年。許可可: 昭和13【1938】年	10
446	「農林公文類集 第五八冊 専用漁業免許」	縦綴・印刷	S9,S14	矢作川支流名倉川の名倉川漁協の申請書類。名倉川漁協は, 昭和9年に本川の一部と支川の名倉川の専用漁業免許を申請。さらに昭和14(1939)年には矢作川の一部延長区域(長野県境まで)と野入川の漁業権認可	10
「農林公文類集」全国その他の組合の漁業権申請書類					
436	「農林公文類集 第五二冊 専用漁業免許」/「農林公文類集 第五八冊 専用漁業免許」	縦綴・印刷	S13	愛知県宝飯郡豊川町下豊川漁協組合の申請書類(以下、資料で確認された申請組合威名を表記)/愛知県北設楽郡園村 園村大字東西園目漁業組合	10
441	「農林公文類集 第五三冊 専用漁業免許」	縦綴・印刷	S14	岐阜・滋賀県下の漁業組合, 揖斐川上流, 武備川上流の漁業組合	10
442	「農林公文類集 第二九冊 専用漁業免許」	縦綴・印刷	S8,S9	愛知県南設楽郡長篠村 大滝漁業組合, 静岡県庵原郡小島村 興津川漁業組合, 熊本県八代郡八代町 球磨川漁業組合, 愛知県春日井郡高蔵寺町 庄内川漁業組合, 愛知県南設楽郡長篠村 寒狭川漁業組合	10
443	「農林公文類集 第二七冊 専用漁業免許」	縦綴・印刷	S8	徳島県那賀郡延野村 那賀川上流漁業組合	10
444	「農林公文類集 第三十冊 専用漁業免許」	縦綴・印刷	S9	愛知県南設楽郡新城町 豊川上流漁業組合	10
445	「農林公文類集 第四五冊 専用漁業免許」	縦綴・印刷	S12	岐阜県上群東村 馬瀬川下流漁業協同組合	10
利水					
明治用水土地改良区 頭首工・水源地 関連資料					
235	「開墾事業二付官林御下願」	一紙・墨書	M17年頃	明治用水が愛知県に提出した請願書	明
240	「指令留」	縦綴・印刷	M30~M34	旧明治用水頭首工建設許可に伴って県が出した, 施設に関する命令書の綴り。県が定める頭首工の規模や形状が記載	明
241	「明治用水開墾事業成績書」	冊子	M34年頃	旧明治用水頭首工(明治34年竣工)の施設写真・設計図掲載	明
242	「大正五年度 工事監督日誌」	ノト・墨書	T5	水源頭首工補強工事(明治用水通水120周年記念特別委員会, 1999; 5)における施工部位と作業内容の記録。県や郡および漁業関係者が魚道建設工事の視察訪問記録あり	明
243	「大正八年一月 監督日誌」	ノト・墨書	T8	同上。県職員が魚道参観の記録あり	明
246	「昭和九年度矢作川水利使用二関スル綴」	縦綴・印刷	S9	旧明治用水頭首工設計図。水利権更新時(昭和9年)に愛知県や農水省と取り交わした書類の綴りで, このとき決定した, 明治用水の取水量, 頭首工の魚道への流量が記載	明
227	「明治用水頭首工「魚道」に関する資料」	袋一括	S33年前後	現在の頭首工(昭和33【1958】年完成)設置の経緯や構造。魚道の流量について交わされた矢作川漁協との協定書あり	明
228	「明治用水「魚道」構造図」	一紙・印刷	S33~	頭首工の構造図面	明
枝下用水 関連資料					
159-9, 163, 164-9	用水周辺の写真	写真	S40年代	現在の豊田市民芸館周辺を撮影	31
越戸ダム, 越戸発電所 関連資料					
632	「三河水力電気 越戸関係稟議書【昭和2年-昭和3年】」	-	S2~S3	「時の遺産 付・目録 中部地方電気事業史料目録集」(中部電力株式会社, 2001)の資料目録に記載	文
164	越戸ダム, 発電所	写真	S30年代	遠景	31
笹戸ダム, 笹戸発電所 関連資料					
636	「稟議書副読綴(笹戸発電所)【昭和14年-昭和16年】」	-	S14~S16	「時の遺産 付・目録 中部地方電気事業史料目録集」(中部電力株式会社, 2001)の資料目録に記載	文

〔150-2, 170, 365-4, 396-9, 396-12, 396-13〕がある。

4) 国・県の水産業

矢作川漁協百年誌研究会の調査活動で得られた戦前の刊行物や資料のうち、往時の水産技術や、全国の漁業状況（漁獲高・放流数等）が記録されたものをここに分類した。前述した『農林公文類集』のうち、矢作川漁協との比較対照資料としても活用でき、加えて、再版予定のない古く貴重な記録であるため、ここに登録した。

2.2.2. 利水

明治用水頭首工（明治34【1901】年竣工）、越戸ダム（昭和4【1929】年竣工）、矢作川総合開発事業（昭和32【1957】年開始）に関連する資料に加え、「環境用水（維持用水）」に関する資料をここに分類した。従来の利水が、河川水を、取水して利用する対象と判断するのに対し、「環境用水」は河川水を、河川に流し続けるべき対象として判断している。従来の利水観とは異なる考え方である。しかし、どちらの資料も、河川水の活用をめぐる検討した記録資料として、ここにまとめた。

1) 明治用水頭首工・同土地改良区所有水源林 関連資料

明治12（1879）年に現在の「中井筋」が完成し、明治用水による矢作川からの農業用水の取水が開始された（明治用水通水120周年記念特別委員会，1999）。さらに、明治34年には、取水を効率的におこなうため、矢作川本流で初めての河川を完全に横断する頭首工が完成した。当時の頭首工（以降、旧頭首工）には魚道はなかった〔240, 241〕が、大正4（1915）年に開始された「水源頭首工補強工事（明治用水通水120周年記念特別委員会，1999）」の現場監督日誌と推察される「大正五年度 工事監督日誌」〔242〕の記録から、大正5（1916）年6月に、ここに魚道が敷設されたことがわかる。また、この日誌とさらに「大正八年一月 監督日誌」〔243〕には、漁業関係者や愛知県職員の視察が記録されている。昭和9（1934）年の新聞記事〔63〕は、矢作川漁協初代組合長鈴木茂樹の働きかけが魚道築造につながったと報告しているが、日誌の記録は、そうした住民の魚道に対する期待を垣間見ることができる資料だと言える⁽³⁰⁾。また魚道完成後も、魚道流量については、昭和9年の水利権更新時〔246〕、昭和33（1958）年の現頭首工への改築時に調整が図られ〔227〕、現在も検討されている。

これらの資料は『矢作川100年誌資料研究 第1集』「矢作川をめぐる権利の発生」にまとめた。

2) 枝下用水関連資料

枝下用水関連資料については、昭和40年代の用水施設周辺が撮影された写真（現在の豊田市民芸館周辺）

〔159-9, 163, 164-9〕を収集した。

3) 越戸ダム、越戸発電所 関連資料

越戸ダム、越戸発電所に関しては、表1の通りである。この他、昭和30年代～昭和40年代初頭（1955～1966）に撮影された越戸ダム、越戸発電所の写真を収集した〔164〕。これら資料は「3. 川辺の暮らしと環境利用」（小川，2003）にまとめた。

4) 笹戸ダム、笹戸発電所 関連資料

笹戸ダム、笹戸発電所に関しては表1の通りである。このうち、大同電力株式会社技師が『土木学会誌 第22巻5号』で報告した「矢作川笹戸発電所工事概要」⁽³²⁾（渡辺，1936）は、発電所築造当時（昭和11年）のレポートであり、希少な文献であるため資料として登録した〔639〕。

5) 矢作ダムおよび矢作川総合開発事業関連資料

矢作ダムは、昭和32（1957）年に愛知県が「矢作川流域総合利水計画」として立案⁽³³⁾、その後昭和34年に建設省に移管し「矢作川総合開発事業」として進められ、昭和46（1971）年に竣工した。この間、昭和39（1964）年河川法改正にともない、矢作川が一級河川指定を受けると、同省は矢作川の総合計画である「矢作川水系工事实施基本計画」〔280-1, 251-2〕を策定し矢作ダムを治水・利水機能を備えた多目的ダムとして計画した。矢作ダムの建設については、建設省がまとめた『矢作ダム基本計画』（建設省中部地方建設局，1969）〔410〕の他、新聞記事〔172～174〕や2冊の写真集〔175, 177〕に記載されている。『矢作ダム基本計画』は主に、矢作ダム本体の機能や構造の記録であり、一方新聞記事や写真集は補償交渉過程や水没地区のかつての暮らしぶりなど、建設に関わる人々の心情を記録している。その他、水没地区の以前の様子を記録した資料〔252～258, 451〕がある。

6) 羽布ダムおよび矢作川農業水利事業関連資料

羽布ダムは、矢作川下流域および支川巴川流域への用水の確保を主な目的とし、矢作川農業水利事業（昭和27～37年事業 農林水産省）で、昭和38（1963）年に竣工した（豊田市矢作川研究所，2002）。またこの間、昭和34年度におこなわれた調査では、河床低下にともなう農水取水口の干上がりが指摘され〔390〕、この問題は、細川頭首工や合口事業を中核とした、矢作川第二農業水利事業のきっかけとなった。その後、この2つの事業で竣工した施設の運営は、関係機関間で調整がはかられ、内容は冊子『県営矢作川利水総合管理事業20年の経過』（愛知県岡崎農地開発事務所，1997）にまとめられた〔230-1, 2〕。また、昭和40年代にかけて矢作川水系で整

備，築造された農業用水関連施設は，各設備の管理者によって操作基準や管理方法が異なり，現場の運営および意見調整に支障をきたしていた．愛知県農地部が，この現状を整理する目的で，運用規則，覚書，協定など諸書類を一括し，『矢作川水系の管理について』〔229〕（愛知県農地部，1973）にまとめている．

7) 上水道 関連資料

表1の通りである．『豊田市水道年報』〔豊田市水道局，1976～2000〕に記録された各年度事の使用量はグラフにし，『矢作川100年誌 資料研究 第1集』「河川水の高度利用」にまとめた．

8) 環境用水（維持用水） 関連資料

「環境用水」という言葉は，平成9（1997）年の河川法一部改正後，河川整備基本計画の策定にむけた委員会等で多用されるようになった⁽³⁷⁾．例えば淀川水系流域委員会では「河川維持流量」や「維持用水」の概念を発展させ，豊かな生態系保全にむけて導入された概念として示されている⁽³⁸⁾．

昭和36（1961）年に使われた「維持用水」という言葉は，下流部に水道水源井戸を持つ岡崎市が，細川頭首工取水後の流量を懸念した中で使用された．以降，昭和49（1974）年に建設省（当時）が巴川合流点から下流部の流量を検討することを公表し〔251-2〕現在に至っている．一方，中上流域では，昭和63（1988）年建設省河川局通達「発電水利権の期間更新時における河川維持流量の確保について」でその根拠が確立されると，平成5（1993）年に百月，笹戸ダムの魚道からの放流量をめぐり，矢作川漁協と流域市町村が，「毎秒5トン」確保の要請運動を推進することを申し合わた．その後は連名で運動を続け，平成8（1996）年に中部電力と「協定書」を交わし，矢作第二ダム，笹戸ダム，百月ダムの「河川維持流量」実施が確定された〔251〕．現在は，発電水利権更新にともなって実施され，1.49～2.9トンが放流されている⁽³⁹⁾．これらの資料の内容は，『矢作川100年誌資料研究 第1集』の「河川維持流量確保への取り組み」にまとめた⁽⁴⁰⁾．

2.2.3. 災害と対策

1) 自然災害と復旧作業

郷土資料館所蔵の扶桑町周辺の古絵図⁽⁴¹⁾には，土場の石垣や大出しなど，治水上の設備ともに，支川には「高砂」の文字が書き添えられている⁽⁴²⁾．本流の洪水に加え，支川からの洪水および土砂流出の被害が多く⁽⁴³⁾，当時の領主がこの2点をポイントに治水事業を進めていたことが推察できる．

その他，伊勢湾台風，47.7災害，東海豪雨の被災お

よび復興の記録を登録した．「矢作川を語る」座談会では，河川管理者（愛知県）の回想を記録し，これらの資料を『「矢作川を語る」座談会記録集』にまとめた．また，東海豪雨災害を契機に国土交通省中部地方整備局豊橋工事事務所（当時）は，矢作川流域の管理のあり方や自然環境と調和した川づくりについて，関係者相互の情報共有と意見交換等を目的に「矢作川の環境を考える懇談会」を開催した（平成14～15年度）〔431〕⁽⁴⁹⁾．

2) 河川水汚濁問題とその対策

矢作川支流の広沢川流域などでは，山から採取した土が精製後，窯業原料として出荷されており，特に昭和初期以降に盛んになった．こうした活動による水質の汚濁は釣り人の間で問題視され，昭和27（1952）年に窯業原料業者が漁協に補償金を支払う形で「和解」している⁽⁵⁰⁾．しかし，高度経済成長期という背景に加えて，伊勢湾台風後の被災地の復興で，各地で建設ラッシュとなり，建築用材としての需要が高まった川砂利および山砂利を採取する時に出る汚濁水が大量に河川内に流れこむようになって，濁りは常習的になった〔114〕⁽⁵¹⁾．この昭和40年代に矢作川漁協の組合員は，各工場を回り，汚濁解消にむけた警告指導と汚濁記録活動をおこなった〔168〕．また，汚濁問題に際し愛知県砂防課は，砂防指定地内で操業する採取業者への指導活動をすすめて，愛知県豊田土木事務所庶務課管理係（当時 現在，維持管理課）も採取業者への警告活動をすすめた（「矢作川を語る」座談会事務局，2003）．さらに昭和40年代後半の矢作川沿岸水質保全対策協議会（矢水協）を中心とする監視・摘発の諸活動や，管理システムの構築で白濁汚染は終息した（藤原・古川，1996）．ところが，昭和50年代（1975～1984）になると家庭雑排水や畜産業やゴルフ場からの排水による汚濁など，多様な要因による慢性的汚濁が問題となった．昭和63（1988）年に矢作川漁協平戸橋支部長が出した「決議文」〔272〕は，これらの被害軽減を目指して対策を求めたものである．さらに採取時の排水を河川汚濁の要因とした漁協は越戸，阿摺，百月の各ダム湖で操業する砂利採取業者と「協定書」〔259-1～3〕を交わし，業者への操業停止を求めた．平成11（1999）年以降，これら3つのダムで砂利採取はおこなわれていない．これらの資料は，『矢作川100年誌 資料研究第1集』「矢作川の濁りとパトロール活動」にまとめた．

2.2.4. 生業と生活

古川プロジェクト調査や今昔写真比較調査でおこなった，住民の方々への聞き取り調査で，終戦直後～現在にかけての暮らしぶりや河川状況を記録した写真および語りを収集した．川辺の集落の暮らしには，生業のために

矢作川データベース資料報告

表1 矢作川資料データベース 主な資料と内容(続)

資料No.	資料名	形・質	対象年	内容・備考	所蔵
636	「稟議書副読編(笹渡発電所)【昭和11年-昭和12年】」	冊子	S11~S12	「時の遺産 付・目録 中部地方電気事業史料目録集」(中部電力株式会社, 2001)の資料目録に記載	文
639	「矢作川笹渡発電所工事概要」(渡辺, 1936)	冊子	S11	施設の概要, 工事手順の報告. 建設地の横断面図あり	文
矢作川総合開発事業および矢作ダム関連資料					
280-1	「矢作川水系工事実施基本計画(昭和41年)」(建設省河川局, 1966)	冊子	S41	建設省作成の矢作川の総合計画. 矢作ダムの建設目的(農業, 工業, 上水道, 発電の各用水の貯水と洪水調整のため)が記載	34
251-2	「矢作川水系工事実施基本計画(昭和49年)」(建設省河川局, 1974)	冊子	S44~H8	昭和41年次策定内容のうち計画高水流量など一部基本方針を変更	11
410	「矢作ダム基本計画」(建設省中部地方建設局, 1969)	冊子	S29~43	矢作ダムの建設に関する基本計画の経過と建設および具体的計画の内容(治水・利水・貯水池運用の各計画, ダム建設費と資金配分)が記載	文
172~174	「矢作ダム関連新聞スクラップ」No.1~3	スクラップ 帳	S36~S49	昭和36年3月10日から昭和49年12月13日までの中日新聞記事のスクラップ(計画進捗, 補償交渉, 住民感情等の取材記事, 矢水協実施のサイト内ヘド口調査記事など)	35
175	「道ありて」(旭町, 1966)	冊子	S32~S41	矢作川左岸に位置する愛知県東加茂郡旭町の矢作ダム水没地区を撮影した写真集. ダム建設開始までの交渉活動の経過を会議風景写真と「あとがき」で記述	文
177	「ふるさと」(串原村, 1966)	冊子	S28~S41	矢作川右岸に位置する岐阜県恵那郡串原村の矢作ダム水没地区を撮影した写真集. ダム建設開始までの交渉活動などの年表掲載	文
252,253 255,257 258	矢作ダム水没地区および, 建設作業写真	写真	S30~S40 前半	水没前の生駒地区や矢作川本川の写真. ダムサイト付近の建設作業風景	36
451	「矢作ダム付替渠道竣工位置平面図」	一紙・印刷	S40年代	矢作ダム水没地区の水没前の地図. 当時の河道や, 水没地区の集落, 橋, 建物が記載	46
羽布ダムおよび矢作川農業水利事業関連資料					
390	「昭和34年度 矢作川水系 農業水利実態調査書 第二分冊 農業水利個別調査(用水の部)」(農林省農地局, 1959)	縦綴・印刷	S34	調査結果から, 河床低下にともなう農水取水口の干上がり指摘	文
230-1	「矢作川・第二農業水利事業羽布ダムの維持管理協定」(愛知県岡崎農地開発事務所, 1997)	冊子抜粋	H4	責任放流の算定方法に従う旨を東海農政局長と愛知県知事の間で, 矢作川沿岸土地改良区連合理事長を立会人に締結した協定書	文
230-2	「羽布ダムにおける責任放流量の算定方法」(愛知県岡崎農地開発事務所, 1997)	冊子抜粋	H4	漁業保護の目的で定めた, 羽布ダム流入量からダム貯水の責任放流量の算定方法	文
229	「矢作川水系の管理について」(愛知県農地部, 1973)	冊子	S40年代	矢作川水系で, 昭和40年代に整備, 築造された農業用水関連施設の運用規則, 覚書, 協定など諸書類を一括した冊子	文
上水道 関連資料					
	「豊田市水道事業年報」(豊田市水道局, 1976~2000)	冊子	S29~H12	豊田地域における上水道史(敷設と使用量の変遷)と各年度使用量の数値データ	文
環境用水(維持用水) 関連資料					
251	「矢作川河川維持流量 関連資料」	ファイル一括・印刷	S32~H11	矢作川漁協が環境用水に関する協議活動で使用した資料や, 活動経緯を漁協の活動担当者がまとめた書類(平成8年に中電と交わした協定書など)	11
251-2	「矢作川水系工事実施基本計画(昭和49年)」	冊子	S49	建設省(当時)が流量について今後検討する旨を表明	文
410	「矢作ダム基本計画」(建設省中部建設局, 1969)	冊子	S36~S44	環境用水(維持用水)に関する検討記録	文
災害と対策					
自然災害と復旧作業					
218	古絵図	一紙	江戸期	扶桑町から巴川合流点までの川沿いを描いた地図. 治水上の設備(土場や大出しなど), 川の形状(支川に「高砂」の文字)が記載	41
253	伊勢湾台風時の被災状況	写真	S34	旭村本郷の駒山川が土砂に覆われた様子	44
256	47.7豪雨災害の被災現場	写真	S48	藤岡町・旭町の空撮写真(昭和48年)など. 愛知県撮影	45
260,261	東海豪雨の被災状況と復旧活動	写真	H13	豊田市国府町の被災から復旧作業状況の記録写真	48
268	47.7災害復旧工事予算目録見書	縦綴・手書	S47	昭和47年7月「47.7災害」の善復興事業で使用された(愛知県豊田土木事務所(当時)管内). 被災箇所と復旧工事内容が記されている	45
270	「貯水型自記雨量計(20cm)自記紙 猿投分析観測」	一紙	S47	雨量計の記録紙. 47.7災害の時の雨量の記録	45
415	「昭和47年災 災害復旧事業(一定災) 田代川流量計算書」	冊子	S47	災害当時(昭和47年7月)の気象状況, 被災箇所, 被災状況などの記録. 愛知県豊田土木事務所(当時)が災害復興事業で使用	45
279	「愛知県豊田土木事務所 平成12年災害復旧工事箇所図」	縦綴・印刷	H12	平成12(2000)年「東海豪雨」時の善復興事業で使用された(愛知県豊田土木事務所(当時)管内). 被災箇所と復旧工事内容	45
411	「お知らせ ダム湖を覆った流木引き揚げ完了」	一紙・印刷	H13	国土交通省中部地方整備局矢作ダム管理所が作成のチラシ. 流木貯木地の写真が掲載	研
431	「矢作川の環境を考える懇談会」配布物	袋一括	H13,H14	平成14~15年度開催. 懇談会議録や出席者の記録	研
	東海豪雨時に被災した古岸水制工の復旧工事	デジ外写真	H13	平成13年3月施工	研
河川水汚濁問題とその対策					
114	矢作川漁協ニュース第6号	一紙・印刷	S46	組合の活動年表に矢作川の汚濁記録が記載	研
168	「工場汚染監視日誌 45.5.8 中和支部」	ノート・手書	S45	矢作川漁協中和支部員の各工場の排水汚濁記録と警告指導指導活動の記録	52
272	「決議文」	一紙・印刷	S63	矢作川漁協平戸橋支部長による決議文. 家庭排水の本川への流入を汚濁要因として豊田市や地元自治区に対し被害軽減のための対策を要求	53
259-1~3	「砂利採取に関する協定書」	ファイル一括・印刷	H7~H11	漁協が越戸, 阿摺, 百月の各ダム湖で操業する砂利採取業者と交わした. 採取時の排水を河川汚濁の要因とし, 業者への操業停止を求めた協定書	11
生業と生活					
生業_農作業					
160,164	堤外地に所有する田んぼ	写真	~S50年頃	現在の豊田市民芸館周辺. 稲が実った田や稲刈り作業の写真	54
165	「古岸養蚕組合」集合写真	写真	S34	扶桑町で養蚕を生業とする方々の集合写真. その他, 昭和初期に撮影された「古岸養蚕実行組合」集合写真(180-9)などあり	54

関わる川と、日常の暮らしの中で関わる川の両面が存在し、それが入れ子状になりながら、川辺の集落の暮らしを形成していた。このような暮らしを示す資料を、生業と日常生活に分類し、さらに前者を「農作業」「砂利・陶土・粘土採取」「運搬」に、後者を「家事」「遊び」「教育」「余暇利用」に細分して整理した。

1) 生業 農作業

扶桑町の方々の養蚕・稲作・酪農作業が撮影された写真を収集した。撮影された作業は、1970年前後に他の作物の転換や労働形態の変化によって行われなくなったため、これら写真は、今は見られない暮らしぶりを示した貴重な資料となっている〔160, 164, 165, 182〕。また、養蚕関連では、「繭検定成績表」〔218〕を調査し、聞き取り調査から、蚕の集荷と出荷、養蚕用具〔407〕の使い方（川での洗い方）など、養蚕作業に関する話を記録した。これらの調査結果は、「矢作川とひとの暮らし 3. 川辺の暮らしと環境利用」「前同 4. 写真で見る川辺の変化」(小川, 2003) にまとめた。

2) 生業 鉱物採取

流域の生業に関わる鉱物採取は、二つに大別できる。一つは、河川敷で採取するもの、二つ目は別の場所で採取した土を河川を利用して精製するものである。

前者は、川砂利や川砂、栗石を、河川敷に出向いて収集して、ほぼそのまま出荷した。扶桑町では、昭和30年代、農閑期や作業の合間に栗石の選別作業をして手間賃を得ることもあったと言う。また越戸町では管理者（愛知県）の許可を得て岸に堆積した砂を採取し建設業者に卸す稼業もおこなわれていた〔388-9, 10, 12, 14〕。しかし昭和40年代になると、労働者需要の増加などの影響を受けたライフスタイルの変化や砂利の減少などが要因となりこれらの採取業はおこなわれなくなった(小川, 2003)。一方、矢作川の大正直轄区間（河口～籠川合流点）では、高度経済成長期以降、建設ラッシュによる需要の増加やポンプ船など採取施設の向上で〔223- 〕採取量がピークになった。しかし、その後河床低下や橋脚露出など、諸問題が発生した⁽⁵⁷⁾ことを受けて平成元(1989)年に全面禁止となった〔280-2〕。現在、矢作川での川砂利採取は矢作ダム湖内のみとなっている。これらの資料の内容は『矢作川100年誌資料研究 第1集』の「矢作川の川砂利用」にまとめた。

後者としては、山砂利や窯業原料があげられる。窯業原料となる風化花崗岩（サバ）の精製は、「トロミル」水車⁽⁵⁹⁾で土と水を攪拌、これを沈澱池に入れて分別し、うわ水は川へと排水された〔635〕⁽⁶⁰⁾。さらに戦後は、電力供給量の増加にともない大規模工場〔634-3〕での

精製が可能となった。しかし、砂利採取同様ライフスタイルの変化や、その他産出地域の進出の影響などを受け、昭和40年代頃を境におこなわれなくなった(藤岡町教育委員会, 1983)。

一方、先に述べた通り、砂利採取および精製作業は、しばしば水質汚濁の原因として取り上げられた〔191, 259, 367, 368, 390〕。これら問題も鉱物採取活動を示す資料としてここに分類できる。

3) 生業 運搬

矢作川流域の舟運および筏流しは、矢作古川と本流の分流や街道の整備など流通システムが整った1600年代後半以降に盛んになった(愛知県, 1980)。古崩(扶桑町)の古彦土場も、同時期に成立し、さらに明治中期の扶桑町周辺は、問屋が並び、この賑わいによって他の商売もなされた商業地だったと考えられる〔218〕。これらの生業は、明治末期からの鉄道敷設に加え、流域各地の発電用ダム建設(大正15年百月ダム, 昭和4年越戸ダム, 昭和10年阿摺ダム)を受けて、昭和初期に終焉を迎えた。この結果は「矢作川とひとの暮らし 3. 川辺の暮らしと環境利用」(小川, 2003) にまとめた。

4) 生活 家事と川

扶桑町および越戸町での聞き取り調査で写真を多数収集した。これらは、昭和30年代までの暮らしぶりを記録した資料であると同時に、河川の使用に関する聞き取り調査時に使用できる点で重要な調査用具だと言える。これらの資料内容は、「矢作川とひとの暮らし 3. 川辺の暮らしと環境利用」「同 4. 写真でみる川辺の変化」(小川, 2003) にまとめた。

5) 生活 遊びと川

扶桑町および越戸町での聞き取り調査で写真を多数収集した。また、古崩プロジェクトでは、子どもの水浴びに関して、昭和10年代の男子の遊び方(当時、小学生男子だった男性から採話)と、昭和30年代の幼児の遊び方(当時、就学前児童の母親であった女性から採話)について話を伺い、加えて、その場所に関する情報(水深・砂礫の様子・周囲の状況など)を記録した。これらの資料は、「3. 川辺の暮らしと環境利用」(小川, 2003) にまとめた。

6) 生活 教育と川

昭和52(1977)年から豊田市立西広瀬小学校では水質汚濁調査を続けながら、調査記録を学校内外で発表するなどの教育活動を続けている〔80〕。また、学校行事の遠足で矢作川河川敷にでかけた際に、現地で撮影された集合写真を登録した。

7) 生活 余暇利用(観光・レジャー)と川

表1の通りである。また、矢作川漁協関連資料で述べた、昭和50年代(1975~84)からの遊漁者の増加を目的としたサービス事業関連資料も、川の余暇利用関連資料としてここに分類した。

2.2.5. 河川行政

1) 河川計画

矢作川が第一級河川指定をうけた昭和41(1966)年に「矢作川水系工事实施基本計画」〔280-1〕が策定された。この計画は、利水量や河川水流量などが再検討された後、昭和49(1974)年に改訂〔251-2〕され、矢作川の河川工事はこの計画に基づいて推進された。平成9(1997)年の河川法一部改正後はこの計画が見直され、工事は、河川整備の基本方針である「河川整備方針」と、この方針をもとに具体的な河川整備に関する事項「河川整備計画」の2段階に分けて、住民等の意見を反映させながら進められることとなった(日本河川協会, 1997)。矢作川では平成15年度から、この「河川整備計画」の策定(大臣管理区間)にむけて、学識経験者、諸団体、自治体、住民からの指導・助言を受けるための「矢作川流域委員会」が立ち上げられた〔409〕。この流域委員会は、現在までに2回開催された(平成15(2003)年10月時点)。

2) 矢作川河口堰

矢作川河口堰については昭和46年に建設計画が発表され、平成10(1998)年に建設休止、平成13年に中止が発表された〔267〕。これらの資料の内容は、『矢作川100年誌資料研究 第1集』の「漁場の確保から環境保全へ」にまとめた⁽⁶⁶⁾。

3) 豊田市河川課 関連資料

表1の通りである。このうち「豊田市矢作川環境整備検討計画委員会」〔406〕は、豊田市域の「矢作川の水辺空間の将来像と適正な河川利用の方策を検討する(豊田市, 1996)」目的で、「建設省豊橋工事事務所や矢作川漁業協同組合の呼びかけに応じて、平成3(1991)年2月に豊田市が設置(新見, 1994)」した。同委員会はドイツ・スイスへの近自然工法視察などをおこない、これら活動は、矢作川本流左岸(豊田市扶桑町沿岸)への、スイス・トゥーア川式の水制工設置などへつながった。また、この頃(平成2(1990)年)、建設省の通達(「多自然型川づくり」の推進について)が出されたことを受け、豊田市内の普通河川が、多自然型川づくりの工法で整備された〔638-1~4〕⁽⁶⁷⁾。

一方、扶桑町沿岸への水制工設置による周辺整備を受けて、地元住民有志がここを「古岸水辺公園」と名付け、清掃を中心とする河川愛護会活動を開始した。豊田市役所河川課は、平成5(1993)年にこの活動エリアを「ふ

るさとの川」に指定し活動支援を開始する。その後、各地域で同様の活動をおこなっていた、あるいは活動を開始したグループの活動区域が同様に指定され、平成15(2003)年現在で、8団体が登録されている〔398〕。さらに平成13(2001)年5月にはこれらの愛護団体や河川管理者が共催で「矢作川『川会議』」〔281〕⁽⁶⁸⁾を発足、矢作川だけでなく他河川で活動する愛護団体の交流の機会となっている。なお、「古岸水辺公園開設5周年記念の集い、第1回矢作川水辺愛護団体交流会、第11回矢作川筏下り大会前夜祭」〔278-14〕の催しからは、「矢作川『川会議』」発足につながる交流活動が、すでに平成5(1993)年時点で芽生えていたことが窺える。これら資料内容は、『矢作川100年誌資料研究 第1集』の「豊田市矢作川研究所の設立」にまとめた。

2.2.6. 河川環境

1) 流域の形状(空間とその形)

矢作川の現在の地図〔463, 豊田市河川図〕と、変遷を確かめる目的で入手した過去に発行された地図〔465~631, 451, 452, 237, 390〕や古い写真資料〔160, 164, 386〕をここに分類した。

古い地図はかつての川の形状を記録した資料として、また、収集写真のうち背景に河原が写り込んでいる写真は当時の水際部やレキの記録でもあり、どちらも歴史資料として位置づけることができる⁽⁷⁰⁾。

2) 工作物

表1の通り橋など約80点の写真資料がある。このうち、架け替え前あるいは流失前の様子が撮影された写真は、かつての様子を記録した歴史資料として、特に表中に示した。文書資料は、明治用水頭首工、越戸ダム、笹戸ダム、矢作ダム、羽布ダム、矢作川河口堰の各関連資料で、概要は各項目に記した。

3) 報告書(水質・流況・生態)

研究所で把握している、矢作川に関する調査で、戦前期の発行のため残存数が少なく取り扱いに注意が必要と考えられる刊行物と未刊行の報告類を資料として登録し、ここに分類した。

2.2.7. 映像・音声記録資料

1) 収集写真

一連の調査で収集した写真は、被写体ごとに各項目で述べた。この他、調査中の参考資料として使用した空中写真をここに分類した。収集写真の一部は、同じ場所、角度で現況(平成13(2001)年秋、豊田市扶桑町、東加茂郡旭町)を撮影し、この結果を、『矢作川100年誌資料研究 第1集』と「矢作川とひとの暮らし 4. 写真でみる川辺の変化」(小川, 2003)にまとめた。

表1 矢作川資料データベース 主な資料と内容(続)

資料No.	資料名	形・質	対象年	内容・備考	所蔵
182	酪農作業	写真	S53	扶桑町内の牛舎での作業風景	54
218	「繭検定成績表」	縦綴・印刷	S12～S43	西加茂郡高橋村(現 豊田市)の小学毎の養蚕者数と繭出荷量	豊
407	養蚕用具(「真綿を取る枠」)	民具	～S30	出荷不可能な繭をほくして広げて家庭用の真綿に成型する木枠	55
生業 鉱物採取					
388-9, 10, 12, 14	越戸の採取現場	写真	S34	川辺に堆積する砂や搬出用のベルトコンベアーが写っている	56
223-	河口近くの川砂ポンプ船の写真	写真	S40年代	日名橋付近にて撮影	研
280-2	「各年度の砂利採取状況表」(河口～籠川合流点)	デジカ	S38～S63	矢作川大臣直轄区間(籠川合流点から下流)の砂利採取許可量	58
634-3	窯業原料精製過程の解説	原稿	S30年代	工場での精製作業レポート	研
635	広沢川流域のトミル水車の設置場所地図と管理者一覧表	一紙・印刷	～S30年代		60
191	「農林公文類集 第四一冊 専用漁業免許」	縦綴・印刷	S8	「免許処分二関スル調査復命書」(191-6)に、昭和8(1933)年に明治用水頭首工から下流で、水量不足と砂利採取による砂利不足で漁業不振が起きたことが記載	10
259	「砂利採取に関する協定書綴」	縦綴・印刷	H7～H11	漁協と砂利採取業者が交わした協定書	11
367, 368	「矢作川漁協総代会議案」	冊子	S46, 49, S58～	漁協が砂利採取業にともなう河川汚濁に関して、愛知県や砂利採取業者に対して起こした要請・陳情・抗議活動が記載	11
390	「昭和34年度 矢作川水系 農業水利実態調査書 第二分冊」	縦綴・印刷	S34	砂利採取が要因の河床低下で、農業用水取水口からの取水が困難であることが報告されている	文
生業 運搬					
218	「古岸古井家文書カード」	袋一括	不明	古井彦惣家に保管されていた150点の文書類を文書一点につき一枚の割合で作成したカード。このカードに記載された史料で重要なものは『豊田市史 三』(豊田市教育委員会ほか, 1978)に掲載	豊
218	「貨物輸出入表 西加茂郡六ヶ村」	縦綴・印刷	M22～M24	平井村, 伊保村, 橋見村, 上郷村, 中野村の貨物輸出入(輸送手段, 物品の数量, 取引金額)と旅行者の出入り状況記録。『豊田市史 四』(豊田市教育委員会ほか, 1977)に一部掲載	豊
180-16	古岸の筏師の集合写真	写真	T15	当時の古岸(現 扶桑町)在住の筏師が鶴飼の船頭をした時に撮影	61
271	百々貯木場	写真	T6～S4	場内の貯木と作業員の遠景	61
248-11	開羅瀬の筏乗り	写真	不明	筏を操縦する筏乗り	61
365-1	広瀬の藤本屋前で撮影された筏の檣	写真	S初期か	藤本屋の軒に立て掛けられた筏の檣	61
248-12	写真_筏でモーター輸送	写真	不明	筏に人の背丈ほどのモーターを載せ運搬している	61
250-1～3	木材伐りだし風景	写真	S初期か	山中での木材切りだし風景(現 旭町)	61
生活 家事と川					
379-3	農繁期の託児所	写真	S20年頃か	越戸町の農繁期託児所。子と託児者の集合写真	62
381-1	井戸水用の手押しポンプを使用している	写真	S32	越戸町民家の庭にて撮影	62
164	矢作川の扶桑町周辺の岸辺の風景	写真	S30～40	聞き取り調査時に使用	62
164-17	矢作川の扶桑町周辺の岸辺の風景	写真	S30～40	聞き取り調査時に使用。浅い水深の水際にアユ釣り舟が浮かび、上流方向に平戸橋が見える	62
生活 遊びと川					
365-15	笹戸で撮影された水浴写真	写真	S30～40	川辺に立て掛けられた水浴中の子どもの名札。水浴中の子どもの存在を示した札と思われる	63
388-1	越戸で撮影された水浴写真	写真	S30年代	百々貯木場下手周辺	63
392-2	久澄橋周辺での水浴び	写真	S初期	小学生ぐらいの子どもと見守る大人	63
388	越戸町河川敷散策風景写真	写真	S30年代	家族で散策風景	63
生活 教育と川					
80	「矢作川水質汚濁調査20年(連続7000日)記念式・環境教育活動発表 配布物」	袋一括	H7	西広瀬小学校で昭和52年からおこなわれている調査活動の記念式典配布物。活動を記した冊子, 新聞記事など	研
386-1	明治用水旧堰堤	写真	S22	高校生遠足集合写真。頭首工から堤防に架設された橋の左岸側で撮影	64
386-2	越戸ダム	写真	S25年頃	高校生遠足集合写真。ダム直下辺りの川原で撮影	64
380-1～8	高橋右岸	写真	S21年頃	小学生遠足集合写真。堤外地の桑畑と架設中高橋と仮橋	64
164-13	勤八峡	写真	S38年	小学生遠足散策風景。天板のないかんぱち橋の橋脚が見える	64
生活 余暇利用(観光・レジャー)と川					
164-8～13	平戸橋周辺の行楽写真	写真	S30～S40前半	平戸橋上流右岸に植えられた桜の見物客	65
393-4	旭町の桜並木見物客	写真	S初期	現在の県道19号線の旭町農協前	65
395-3～5	笹戸の行楽地絵はがき	写真	S10	「笹戸上流有間の景」「笹戸南山瀧の遠望」「矢作川渡船ノ場」	65
382	香嵐溪散策風景	写真	S40年代	ベンチに座る家族	65
114	矢作川漁協ニュース第6号	パンフレット	S55～S57	釣り大会, 稚鮎放流量増量など遊漁者誘致の活動が記載	研
637	平成13年テレフォンサービス原稿	手書	H13	矢作川漁協のテレフォンサービス用原稿。当日の川の状況, ヤナ案内など	11
156, 402	「矢作川漁協釣場案内」	パンフレット	S63, H15	釣りポイントや, 親売り場の案内	研
河川行政					
河川計画					
280-1	「矢作川水系工事実施基本計画(昭和41年)」	冊子	S41	昭和41年策定	文
251-2	「矢作川水系工事実施基本計画(昭和49年)」	冊子	S49～H9	昭和41年計画の改訂	文
409	「矢作川流域委員会」の配布資料	袋一括	H15～	委員会設立主旨・委員会参加者・会議録など	研
矢作川河口堰					

矢作川データベース資料報告

表1 矢作川資料データベース 主な資料と内容(続)。

資料No.	資料名	形・質	対象年	内容・備考	所蔵
267	「矢作川河口堰 矢作川漁協」	ファイル一括・印刷		矢作川漁協がまとめた関連資料ファイル	11
267-1	「決議文 海と川の生態系をくわす矢作川河口堰を作らないで」	一紙・印刷	H8	矢作川漁協の反対決議文	11
267-2	「矢作川河口堰 わたしたちの地域がさらに発展するために」	冊子	H2か	中部地方建設局豊橋工務事務所が発行。建設目的と実施概要、完成イメージイラスト等が記載	11
267-3, 4,5,6	「矢作川河口堰建設事業審議委員会」配布資料	綴・印刷	S8, S38~H8	「矢作川河口堰建設事業に関する基本計画」「矢作川河口堰の治水計画について」「矢作川河口堰の環境調査について」、矢作川流域下水道反対市民の会の「要望書」など	11
267-7,8	「内水面漁協小委員会」配布資料	綴・印刷	H7,H8	豊橋工務事務所(当時)と漁業関係者および下水道反対市民の会らが開催。「矢作川藤井床固めの魚道改良について」など	11
267-9	「平成8年度豊橋工務事務所矢作川魚類調査報告書」	冊子	H8	「内水面漁協小委員会」配布資料、明治用水頭首工、細川頭首工、巴川頭首工の魚道へのアユ遡上調査の実施概要と調査報告	11
豊田市河川課					
406	「豊田市矢作川環境整備計画検討委員会議事録」	ファイル一括・印刷	H3~H5	河川管理者・利水団体・漁業団体・自然保護団体・学識経験者をメンバーとし、幹事会を計4回、委員会を2回開催した時の記録	研
638-1	準用河川太田川, 計画断面図(工事断面図)	一紙・青焼	H2~	多自然型川づくりの工法で施工。大内町 計画平成2【1990】年, 着工平成4【1992】年~	豊
638-2	準用河川櫻尾川, 計画断面図(工事断面図)	一紙・青焼	H8~	多自然型川づくりの工法で施工。野見山町 計画着工平成8【1996】年~	豊
638-3	準用河川鍋田川, 計画断面図(工事断面図)	一紙・青焼	H8~	多自然型川づくりの工法で施工。鍋田町 計画着工平成8年~	豊
638-4	準用河川香沢川, 計画断面図(工事断面図)	一紙・青焼	H10~	多自然型川づくりの工法で施工。矢並町 計画着工平成10【1998】年~	豊
398	「豊田市役所河川課 愛護会資料」	ファイル一括・印刷	H5~	市が所有する愛護会関連の書類と、各愛護会から提出された会則等。活動範囲や活動内容が記載	豊
281	「矢作川「川会議」関連資料」	ファイル一括・印刷	H13~	「矢作川「川宣言」(平成13年採択)や「矢作川学校」の要項(平成14年採択, 実施)	研
278-14	「古岸水辺公園開設5周年記念の集い, 第1回矢作川水辺愛護団体交流会, 第11回矢作川筏下り大会前夜祭, 合同開催について」	一紙・印刷	H9	イベント開催案内。日程, 場所, 式次第など	53
河川環境					
流域の形状(空間とその形)					
463	「河川・砂防図(1/50000)」	一紙・印刷	H11	愛知県	研
	「豊田市河川図」	一紙・印刷		豊田市河川課	研
465~631	流域の地形図(1/25000, 1/50000, 1/200000)	一紙・印刷	M22..H11	発行年ごと(最古:明治22【1889】年発行 1/50000)	研
451	「矢作ダム代替県道竣工位置平面図」	一紙・印刷	S45	愛知県が矢作ダム取り付け道路建設時に作成した	46
452	「昭和56年度調査 矢作川平面図・矢作川縦断面図」	一紙・印刷	S56	県が昭和56年度調査事業で作成。愛知県管理区域(籠川合流点~矢作ダムサイト)の大きな河川からの距離と標高が記	46
237	「矢作川流量調節池調査報告(愛知県土木部, 1937)」	冊子	S9~S11	治水と放流水(濁水時)確保を目的とした平谷調節池(平谷村)と善夫調節池(作手村)の計画基礎調査報告書。巴川合流点~平谷村までの「矢作川縦断面図」あり	文
390	「昭和34年度 矢作川水系 農業水利実態調査書 第二分冊」	綴綴・印刷	S34	昭和34年当時の水利状況の報告や河口から籠川合流点までの「矢作川縦断面図」	文
160, 164	扶桑町周辺(矢作川左岸)	写真	S30~S40	川と川辺の景観。聞き取り調査時に使用	69
386	越戸町周辺(矢作川右岸)	写真	S30~S40	川辺の景観	69
工作物					
	矢作川流域の橋(約80点)	写真		両国橋(木加茂郡旭町), 越戸ダム, 平戸橋, 高橋, 久澄橋, 明治用水頭首工, 黒田ダム, 矢作ダムなど	
159-10, -11, 164-18	勘八橋	写真	S38年頃	47.7豪雨災害(昭和47年)流失前。右岸(平戸橋町)から撮影した全景写真と, 左岸から越戸発電所方向を見た近景写真	71
386-1	旧明治用水頭首工	写真	S20年代	旧頭首工, 旧頭首工右岸の木製の橋	71
239	旧明治用水頭首工以前の明治用水導水堤周辺	写真	M33年頃か		明
248, 249	旧両国橋	写真	T8年頃	架け替え前の様子が撮影された写真。現, 旭町	9
377, 386-6	越戸の流れ橋	写真	S32年頃	流失前の流れ橋を右岸川辺, 橋の上から撮影	71
392-2	旧久澄橋	写真	S20年代	右岸側と周辺の様子での水浴風景。木製の橋脚や土場跡の石垣が見える	豊
報告書(水質・水量・生態)					
237	「矢作川流量調節池調査報告(愛知県, 1937)」	冊子	S9~S11	治水と放流水(濁水時)確保を目的とした平谷調節池(平谷村)と善夫調節池(作手村)の計画基礎調査報告書。調査期間は3年。建設計画地の地質, 気象はじめ, 矢作川流域の産業, 交通, 災害, 水利に関する報告や調節池の効果を報告	文
236	「昭和十八年 愛知県河川水量年報(愛知県土木部河川課, 1943)」	冊子	S18	木曾川, 庄内川, 矢作川, 豊川の「降水量」「水位」「出水」が記録されている(矢作川の観測地は「平井」「岡崎」「米津」)	文
269	「矢作川水系河川現況調査 第2号(建設省河川局, 1953)」	冊子	S28	本川だけでなく, 各支川すべてを調査し, 一河川に対し, 1ページの割合で各河川の基本的情報がまとめられている	文
401	「標識アユ放流調査報告書」	一紙	H1	矢作川漁協が平成元年におこなった調査の報告で, 調査方法, 調査結果(成長状況, 日別回収表, 回収地別回収数)が記載	72
403	「豊田市矢作川自然環境調査委託調査報告書」	綴綴・印刷	H6~H7	豊田市矢作川研究所が実施した調査報告	研
403	「矢作川生態系調査委託報告書」	綴綴・印刷	H7~H9	同上	研
403	「矢作川アユ生態調査報告書」	綴綴・印刷	H7~H10	同上	研
403	「古岸プロジェクト環境調査委託報告書」	綴綴・印刷	H11~H13	同上	研

表1 矢作川資料データベース 主な資料と内容(続)。

資料No.	資料名	形・質	対象年	内容・備考	所蔵
403	「準用河川櫻尾川自然環境調査委託報告書」	縦綴・印刷	H11	豊田市矢作川研究所が実施した調査報告	研
403	「丸藪池環境調査委託」	縦綴・印刷	H13	同上	研
403	「普通河川広沢川自然環境調査報告書」	縦綴・印刷	H14～H15	同上	研
403	「川を生かしたまちづくりプロジェクト報告書」	縦綴・印刷	H14～	同上	研
403	「準用河川太田川自然環境調査委託報告書」	縦綴・印刷	H13～H15	同上	研
映像音声記録資料					
収集写真					
	調査時借用写真	写真		被写体ごとに各項目で紹介	
	豊田市全域空中写真	写真	右の通り	昭和30、35、40、55、平成2年あり(一部欠)	豊
	「一級河川 矢作川」	写真・冊子	H13	豊田市域の矢作川の空中写真	研
今昔比較写真					
	現況写真	写真	H13	収集写真と同じ場所、角度で現況(平成13年秋、豊田市扶桑町、東加茂郡旭町)を撮影	研
若子写真館蔵					
	矢作川の風景写真、観光地図、絵葉書	写真/一紙	M28～S初期頃	平戸橋の鴉飼、平戸橋絵葉書、前田公園、勘八峡、勘八橋、越戸ダム建設作業、馬場瀬ヤナ、支川の籠川、広沢川の写真など	
研究所調査写真					
168	研究所調査時の状況写真、生態写真		H6～		研
聞き取り調査記録					
001203	扶桑町, 昭和一桁～10年代生, 男性.	音声/文書	S10～S20	提外地の利用方法, など	研
010503	扶桑町, 昭和10年代嫁入り, 女性.	音声/文書	S20～S30	稲作, 養蚕など生業について	研
010503	扶桑町, 昭和20年代嫁入り, 女性.	音声/文書	S20～S30	稲作, 養蚕, 酪農など生業について	研
010512	扶桑町, 昭和10年代嫁入り, 女性.	音声/文書	S20～S30	養蚕労働など	研
010526	扶桑町, 昭和一桁代生, 男性. 梅坪町, 昭和10年代生, 男性.	音声/文書	S20～	土場や瀬の呼称, その変遷など	研
010528	扶桑町, 昭和20年代生, 男性, 釣り具店主.	音声/文書	S50～	矢作川の鮎釣り漁, など	研
010609	扶桑町, 大正1年生, 女性. 同町, 昭和一桁生, 男性.	音声/文書	T10～S30	筏師の働き, 養蚕労働など	研
010708	扶桑町, 昭和20年代嫁入り, 女性.	音声/文書	S30年代	幼児の遊び方(当時, 就学前児童の母親だった女性から探話). 当時の川辺の様子(水深・砂礫の様子・周囲の状況). 中洲のヨシ刈り, など	研
020408	扶桑町, 昭和10年代嫁入り, 女性.	音声/文書	S30年代	写真(164)を見ながら聞き取り. 川辺の利用方法(養蚕・洗濯), 川までの道のり, など	研
020408	扶桑町, 昭和20年代嫁入り, 女性.	音声/文書	S30年代	写真(164)を見ながら聞き取り. 川辺の利用方法(洗濯・水くみ), 川までの道のり, など	研
020807	扶桑町, 昭和10年代嫁入り, 女性.	音声/文書	S30年代	川辺の利用方法, など	研
020808	扶桑町, 昭和一桁～10年代生, 男性.	音声/文書	S10年代	昭和10年代の川あそび, 当時の川の様子など	研
020808	扶桑町, 大正1年生, 女性.	音声/文書	S10年代	戦前の暮らしぶり, 川辺の利用方法(洗濯, 水浴び)など	研
020809	扶桑町, 昭和20年代嫁入り, 女性.	音声/文書	S30年代	主婦の川利用, など	研
020913	猿投町, 大正6年生まれ, 男性. 昭和12年生まれ, 男性	音声/文書	S10～S35年頃	トロミル水車の使用法・販路. 1猿投町の生業(窯業原料採取, 鮎物採取など).	研
020917	扶桑町, 昭和一桁生, 男性. 昭和20年代嫁入り, 女性.	音声/文書	S20～S30	戦後の生業, 川辺の利用方法(水遊び, 栗石採取)など	研
020917	扶桑町, 昭和10年代嫁入り, 女性.	音声/文書	S20～S40	写真(159,160)を見ながら聞き取り. 提外地での稲作と転地, 主婦の川利用, など	研
文献					
単行本/定期刊行物/博物館・美術館資料/行政刊行資料郷土資料					
論文(上記文献と冊子が重複する場合あり)					
新聞				2000(平成12)年4月28日までのデータ入力済み	
	矢作新報			矢作川関連記事調査済み, 未入力	
	加茂時報			矢作川関連記事調査済み, 未入力	
	加茂新聞			矢作川関連記事調査済み, 未入力	
	加茂タイムス			矢作川関連記事調査済み, 未入力	
	新三河タイム			矢作川関連記事調査済み, 未入力	
	豊田日日新聞			矢作川関連記事調査済み, 未入力	

2) 若子写真館所蔵写真

市内若子写真館を訪問し, 明治28年～昭和初期(1895～1940年頃)にかけての矢作川の風景写真, 観光地図, 絵葉書など, 貴重な資料が保管されていることを確認した。

3) 研究所調査写真

平成6(1994)年以降, 研究所調査時の状況写真, 動

植物生態写真を保管している。

4) 聞き取り調査資料

平成12(2000)年から現在までの聞き取り調査の記録で, テープとテープ起こしをした文字資料を保管している。主要な聞き取り結果は「矢作川とひとの暮らし」(古川ら, 2003)で使用した。

2.3.8. 文献

平成15(2003)年12月時点で940点を登録した。

2.3.9. 新聞

加茂時報,加茂新聞,加茂タイムス,新三河タイムス,豊田日日新聞,矢作新報から,矢作川関連記事を収集した。

3.まとめ 資料から見える矢作川の姿

収集資料の整理作業で,もっとも困難なものは,「一言で特徴づけることができない資料」であった。そういった資料には,「環境」という言葉がしばしば付されていた。

「環境」とラベリングできる資料は,特に昭和40年代以降に増加している。当初は,公害を意味していたが,その後は生活を楽しむ「場」を示す言葉として,さらに,「保護し関わりを深めるべき空間」を対象として使用されるようになった。例えば,矢作川漁協関連資料を見ると,昭和40年代の警告活動ののち,昭和50年代に遊漁者へのサービス業的展開をし,昭和60年代(1985~1988)の魚類・河川調査期を経て,平成期(1989~)には,他機関との共同で環境活動を進め,やがて「環境漁協宣言」を採択するに至っている。これは漁協にのみ特徴的なことではない。例えば,昭和52(1977)年開始の矢水協主催による上流と下流住民の交流会(矢作川沿岸水質保全対策協議会,1999)や,昭和56(1981)年の河川審議委員会の答申以降進んだ「親水」事業⁽⁷³⁾,平成3(1991)年に開始された矢作川漁協と小原村,旭町協同による「環境用水(維持用水)」の請願活動〔251〕などにもそうした「環境」という用語の移り変わりをみることができる。このように,各関係諸団体が同じ流域住民という意識のもと,折衝から対話へとその姿勢を替えていく場において,「環境」という言葉がよく見かけられた。しかし資料をよく見ると,「環境」を標榜しながらも実際の目的は,観光資源の開発であったり,生物棲息場の保護であったりと,それぞれ異なり,対話の場は一方で,各々の川に対する想いや欲求が錯綜する場ともなっている。もし,それぞれの活動目的にびたりと合うような新しい言葉ができれば,言葉とともに活動も分かれてしまうかもしれない。つまり「環境」というラベルは,何かを取りまとめているようで,実はすべてを覆い隠しているにすぎないとも言える。

ここで,「目に直接映ってくるもの」「耳を通して得られるもの」そして「眼からも耳からも,とうてい捕捉しがたいもので,そのムラの人たちとの交わりの中で,感覚的に知り得るもの(宮田,1975)」を収集してきた民

俗学の調査法を参照しておこう。千葉徳爾は,民俗学の調査について「認識と理解とを発生的に獲得しているプロセスが無視され」たため,「住民の年齢的発育過程との関係,これらの意味がその生活に占める比重などはよくわからなくなってしまった(千葉,1988)」と述べている。

「矢作川データベース」では,この考え方を手がかりに,「認識と理解とを発生的に獲得しているプロセス」を大切に,「現在との脈絡を確かめながら」(宮田,1969)資料を整理していった。すると,「環境」というラベルよりも,属性と年代に沿ってラベリング整理する方が,資料の意味を活かせるのだということがわかってきた。このような過程を経て「矢作川資料データベース」に登録された資料は,団体別や施設別,あるいは目的別に仕分けされていった。

しかし,意味や内容はさておき,「環境」という言葉が様々な資料に姿を表すのは,ここ40~50年の間に川をひどく痛めてしまった「治水」「利水」の思想から,一足抜け出て,新しい川との付き合い方を模索中であることを示しているのだろう。川と関わる多くのひとが,川との付き合い方について試行錯誤を繰り返している。そういう意味でも,今後は,「矢作川流域委員会」等の対話のなかで,それぞれの団体や流域市町村が,矢作川という世界をどのように語るのかに注目したい。そこではおそらく,「環境保全」という理想と,それぞれの「生活保全」という現実のギャップが明らかになり,摺り合わせの作業が始まるのだろう。さらに言えば,矢作川流域における新しい「発展」の方向を慎重に考える時期に来ていると言える。そこでは,本当に必要なものが何か,個別の地域だけではなく流域全体で考える姿勢が必要となる。

その時には,川と生きてきた先人の暮らしぶりを細かく丁寧に記録した資料に基づいて,矢作川と人の関わりを問い直す必要があるだろう。そしてこの作業で過去を学び,あるいは,反省することが,新たな関わりを構築する上で重要な手がかりとなるだろう。そのためにも,調査活動をすすめるとともに,ここに記録した資料の公開作業をおこない,資料の散逸を避けたい。「矢作川データベース」はそういう意味で,過去の集積というよりも,これからの矢作川のためにあると言える。様々な資料の集積作業と,分かりやすい結果の発信作業を続けていきたい。

謝 辞

本稿をまとめるにあたり、関西学院大学社会学部古川彰教授、矢作川天然アユ調査会の新見幾男氏、京都大学大学院の芝村龍太氏、豊田市矢作川研究所梅村諒二所長、田中 蕃研究顧問、洲崎燈子主任研究員、白金晶子研究員には本文の校閲および多くの助言を頂いた。また、文献資料解読は、豊田市郷土資料館伊藤智子氏、名古屋大学大学院の長屋隆幸氏にお願いした。資料整理実務に関しては、安城市史編纂室の三島信一氏、水谷令子氏（当時）に多くの助言を頂いた。さらにここで報告した資料の各所蔵者、所蔵機関の皆様には、多くのご理解とご協力を頂いた。この場を借りて、厚くお礼申し上げます。

注 釈

- (1) 冊子分類は、「琵琶湖博物館開館までのあゆみ」（滋賀県立琵琶湖博物館，1997）を参照した
- (2) 「矢作川文献データベース」集積結果から判断
- (3) 親番号，枝番号，年代，月日，西暦，分類，キーワード，主な活動者，標題，主な記載事項，所有者，寄・借用・調査，資料状況，資料形態，法量，処理，資料保管先，資料内容等
- (4) 報告者の研究所在籍年間
- (5) 具体的には，矢作川の環境を考える懇談会（平成13～14年），矢作川「川会議」（平成13年～），矢作川流域委員会（平成15年～），愛知 川の会（平成15年～）
- (6) 豊田市全域，西加茂郡（三好町，藤岡町，小原村），東加茂郡（足助町，下山村，旭町），北設楽郡（稲武町）。豊田加茂建設事務所ホームページ参照
<http://www.pref.aichi.jp/kensetsu-somu/toyotakamo-kensetsu>
- (7) 矢作川漁協の漁業管理区域は次の通り。本流は天神橋（豊田市）～寿橋（東加茂郡旭町）の約48km。支流は，吾妻川，犬伏川，阿摺川，介木川，御船川，籠川（矢作川漁協発行パンフレット「平成15年度 矢作川漁協釣場案内」参照）
- (8) これに加え平成15（2003）年12月，矢作川漁協から『環境漁協宣言』が刊行された（矢作川漁業協同組合，2003）。漁協活動を中心に矢作川の河川史がまとめられている
- (9) 矢作川漁業初代組合長鈴木茂樹氏ご子孫鈴木昌弘氏所蔵
- (10) 独立行政法人水産総合研究センター中央水産研究所所蔵。なお，この資料は『環境漁協宣言』第二章 川の権利をめぐってで詳しい説明がなされている
- (11) 矢作川漁協所蔵
- (12) 矢作川漁協平戸橋支部長所蔵
- (13) 漁業権取得以降，漁協総代会議事録が残存する昭和48（1973）年までの約40年間の漁協の活動を確認する資料は数少ない。一部は昭和61（1986）年発行の『矢作川漁協85年誌』で公開されたが，この時の資料は漁協に関する明治期の文書を含め，平成5年の漁協事務所火災で焼失してしまっ
- (14) このうち放流量・遊漁者数・釣果に関する報告はグラフにまとめ『矢作川100年誌資料研究 第1集』（豊田市矢作川研究所，2002）に掲載した。
- (15) 東加茂郡旭町鈴木重隆氏所蔵
- (16) 例えば，平成8（1996）年，第28回総代会議案，「決議文 海と川の生態系をくるわず矢作川河口堰を作らないで」がある。『矢作川100年誌資料研究 第1集』に掲載
- (17) 昭和55（1980）年魚族調査，平成元（1989）年標識アユ調査〔401〕，平成2年明治用水頭首工遡上調査を岐阜大学と共同調査，平成4年愛知県水産試験場と合同で標識アユ調査，平成5年河川鮎生育調査および，平成2年岐阜大学藻類調査実施を報告している。平成元年の報告は総代会議案とは別に関係者に配布された〔401〕
- (18) 後年，これに替わって作成されるパンフレット「矢作川漁協釣場案内」よりも具体的情報が多く，組合員向けに作成されている
- (19) 研究所では「昭和63年度，平成元年度，2年度，4年度，8年度，11年度，14年度，15年度」を保管している
- (20) 現在（平成15年夏），矢作川本流で営業しているヤナは，澄ヶ瀬・小渡・川口・広瀬の四箇所，支流では巴川の松平・白鷺ヤナ，足助川の一の谷ヤナ，男川の男川ヤナの四箇所である。資料にあるヤナのうち，大野瀬，馬場瀬，豊田のヤナはすでに存在しない
- (21) 矢作川漁協初代組合長鈴木茂樹氏ご子孫川台博尹氏所蔵
- (22) 藤岡村下川口区有文書
- (23) 矢作川漁協漁業社支部福岡八郎氏所蔵
- (24) この時の資料は，平成13年に古川氏から矢作川研究所に寄贈された
- (25) 矢作川漁協豊田支部有木繁一氏所蔵。尚，豊田ヤナの開業は昭和58～平成元（1983～1989）年の6年間（愛知県豊田土木事務所，1995 参照）
- (26) 矢作川漁協中和支部加藤徳治氏所蔵。なお，中和出荷組合は，豊田市西広瀬，東広瀬町周辺の人々で組織された組合で，現在の矢作川漁協中和支部とは別組織である。戦前は流域各地にこのような出荷組合があり，中和と同様に活動していた

- (27)「矢作川漁協百年誌研究会」は平成13年3月27日～10月25日に全6回開催された。「矢作川漁協100年誌ニューズレター」はこの研究会の結果を参加者に伝える目的で、開催毎に一号ずつ発行した。特集号を含め、全7号を発行した
- (28)『矢作川百年誌資料研究 第1集』(豊田市矢作川研究所, 2002), 『環境漁協宣言』(矢作川漁業100年史編集委員会, 2003) 参照
- (29) 150-2: 矢作川漁協小渡支部鈴木忠幸氏所蔵. 365-4: 加藤徳治氏所蔵. 369-9, 12, 13: 鈴木重隆氏所蔵.
- (30) その他, 頭首工に関連する資料として『農林省明治用水農業水利事業要録』(農林省明治用水農業水利事業所, 1958)[231], 『土地改良事業計画設計基準』(農林省農地局, 1967)[233], 『土地改良施設管理基準-頭首工編-』(農林水産省構造改善局, 1997)[232]の文献が挙げられる. ここには, 頭首工に布設された魚道の管理方針が記されている
- (31) 豊田市扶桑町個人所蔵
- (32) 旧かな使い文字は, 常用漢字に改変した
- (33) 矢作ダム水没地区写真集『ふるさと』(串原村, 1966)参照. なお, 対岸の旭村が発行した『道ありて』には, 昭和28(1953)年立案と記載
- (34) 国土交通省中部地方整備局所蔵
- (35) 安藤照夫氏所蔵
- (36) 252, 253, 255, 257: 安藤一三氏所蔵. 258: 矢作ダム管理所所蔵.
- (37) インターネット検索エンジン「yahoo」では, 「維持用水」検索で22500件, 「環境用水」では, 66000件の使用が確認された. 平成14(2002)年には環境用水量の評価手法が提案された(2002. 高崎). 高崎は, 環境用水を「景観の改善, 親水・レクリエーション空間の創出, 動植物の生息・生育環境の保全, 歴史的文化遺産の保護・保存等を目的として河川や水路などに水を導入するもの(高崎, 2002)」とまとめている
- (38) 淀川水系流域委員会 第4回委員会水需要管理WG(H14. 8. 19) 資料「『水需要管理』WGとりまとめ(案)」参照
- (39) 笹戸ダム～笹戸発電所間(2.9トン/秒)は, 平成11(1999)年6月から, 矢作第二ダム～百月発電所間(1.49トン/秒)は, 同年10月から実施された
- (40) 『環境漁協宣言』第6章 環境を語る漁協に詳しい
- (41) 渡辺家藩領矢作川通絵図(豊田市郷土資料館, 2002)
- (42) 豊田市郷土資料館, 伊藤智子氏からご教示
- (43) 『豊田市の城下町展』(豊田市郷土資料館, 2001)年表参照
- (44) 「矢作川を語る」座談会参加者安藤一三氏所蔵
- (45) 「矢作川を語る」座談会参加者早川哲夫氏蔵. これらの資料の一部は『47.7災害復興誌』(愛知県土木部, 1975)に掲載された(早川, 私信)
- (46) 愛知県豊田加茂建設事務所所蔵
- (47) 東海豪雨に関しては『矢作川研究 6』「特集」に調査記録がある(豊田市矢作川研究所, 2002)
- (48) 豊田市大津氏所蔵
- (49) 「矢作川の環境を考える懇談会」議事録は豊橋河川事務所事務所ホームページで公開されている
http://www.cbr.mlit.go.jp/toyohashi/kondan/f_11.html
- (50) 昭和27年9月1日加茂時報記事「矢作川の汚水問題 円満な解決成る」参照
- (51) 矢作川漁協ニュース 第6号[114]では昭和46(1971)年に「稚鮎放流が不可能」との表現で深刻な汚濁状況が記載されている
- (52) 加藤徳治氏所蔵
- (53) 矢作川漁協平戸橋支部長所蔵
- (54) 豊田市扶桑町個人蔵
- (55) 豊田市扶桑町個人蔵
- (56) 豊田市越戸町個人蔵
- (57) 砂利採取に加え, 大正末期以降に築造されたダムが, 流下砂を貯留したことも要因の一つにあげられる
- (58) 豊橋河川事務所ホームページ「第二回矢作川の環境を考える懇談会資料」に掲載
- (59) トロミルが取り入れられたのは, 大正5～8(1916～1919)年頃で, 以前は杵が使われていた(藤岡町教育委員会, 1983. 月刊矢作川同人, 1972. 12)
- (60) 豊田市猿投町個人蔵. この記録は「平成14年度 広沢川調査報告」にまとめた
- (61) 180-16: 豊田市扶桑町個人, 271: 矢作川漁協平戸橋支部市川啓二氏, 248-11. 12, 250: 鈴木昌弘氏, 365-1: 加藤徳治氏, 所蔵
- (62) 379-3: 豊田市越戸町個人, 381-1: 豊田市越戸町藤井昌敏氏, 164: 扶桑町個人所蔵
- (63) 365-15: 加藤徳治氏, 388: 藤井昌敏氏, 392-2: 豊田市広報課, 所蔵
- (64) 380, 386: 藤井昌敏氏, 164-13: 豊田市扶桑町個人, 所蔵
- (65) 164-8～13: 豊田市扶桑町個人, 393-4: 東加茂郡旭町築地鯨一氏, 395-3～5: 鈴木重隆氏, 382: 藤井昌敏氏, 所蔵
- (66) また, 計画提示から建設中止までの過程は, 新見幾男矢作川漁協専務理事(当時)が「矢作川河口堰交渉」(1998)にまとめている
- (67) さらに平成10(1998)年建設省河川局通達『美しい山河を守る災害復旧基本方針』のなかで「自然環境の保全

- に配慮した復旧」が推進された。平成12年東海豪雨後は、これを受けて市内被災箇所が同工法で施工されつつある
- (68) 毎年5月第2土曜に開催。前述した愛護会のほか、矢作川漁協、矢作川を筏で下る会、流域行政、豊田市矢作川研究所の計11団体で開催されており、環境保全活動の発表、基調講演などをおこないながら、各団体の交流を図る機会となっている
- (69) 160, 164:豊田市扶桑町個人, 386:藤井昌敏氏, 所蔵
- (70) また、河川工学的分析の資料にも活用された。調査研究事例に「空中写真で見た矢作川中流の河床形態の経年変化」(神尾ら, 2001), 「矢作川中流部における河床と水位の経年変化」(大島ら, 2002) があげられる
- (71) 159-10, -11, 164-18:豊田市扶桑町個人, 386-1, -6:藤井昌利氏, 377:豊田市越戸町中根文夫氏, 所蔵。
- (72) 矢作川天然アユ調査会会長, 矢作川漁協中和支部, 水野 修氏所蔵
- (73) 国土交通省河川局ホームページ内「河川環境施策の変遷」参照<http://www.mlit.go.jp/river/shingikai/shakai/020606/pdf/12-2.pdf>

(引用・参考文献)

- 愛知県(1980)愛知の林業史。愛知県。
- 愛知県土木部(1937)矢作川流量調節池調査報告。
- 愛知県土木部河川課(1943)昭和十八年 愛知県河川水量年報。
- 愛知県土木部(編)(1975)47.7災害復興誌。災害復興協賛会。愛知県。
- 愛知県・岡崎農地開発事務所(1993)県営矢作川利水総合管理事業20年の経過。愛知県。
- 愛知県農地部(1973)矢作川水系の管理について。
- 愛知県豊田土木事務所編(1995)矢作川。愛知県豊田土木事務所。
- 旭町(1966)道ありて。
- 藤岡町教育委員会編(1983)藤岡の水車。藤岡町教育委員会。
- 藤原久道・古川 彰(1996)矢作川流域における河川保護運動。農学原論研究, 3。京都大学農学研究科生物資源経済学専攻農学原論研究室。
- 古川 彰編(1996)矢作川の伝統漁業と人の暮らし—豊田市広瀬ヤナを中心に—。豊田市。
- 古川 彰・川田牧人・芝村龍太・小川 都(2003)矢作川とひとの暮らし。矢作川研究, 7:105-168。
- 月刊矢作川同人(1979)月刊矢作川, 33。
- 伊藤尚志(1997)矢作川水系の水力発電所, 中部電力のあ

- ゆみ。
- 神尾孝弘・守屋良平・大村泰章・内田臣一(2001)空中写真で見た矢作川中流の河床形態の経年変化, 河川環境復元総合調査研究事業(矢作川古巣プロジェクト)平成12年度調査報告書。豊田市矢作川研究所。
- 建設省中部地方建設局(1969)矢作ダム基本計画。串原村(1966)ふるさと。
- 建設省河川局(1953)矢作川水系河川現況調査, 2号。
- 建設省河川局監(1997)新しい河川制度の構築 平成9年河川法改正。日本河川協会。
- 明治用水通水120周年記念特別委員会編(1999)明治用水120年の流れそして21世紀へ。明治用水土地改良区
- 宮田 登(1969)文献と伝承。日本民俗学会報602; 37-39。日本民俗学会。
- 宮田 登(1975)8 調査資料の整理。民俗資料調査整理の實務。柏書房, 東京。
- 新見幾男(1994)ヨーロッパ近自然紀行 スイス・ドイツの川づくりをたずねて。風媒社, 愛知。
- 新見幾男(1998)矢作川河口堰交渉 20年の経過と終戦処理, 水資源・環境研究, 11: 48-50。水資源環境学会, 東京。
- 農林省明治用水農業水利事業所(1958)農林省明治用水農業水利事業要録。
- 農林省農地局(1959)昭和34年度 矢作川水系 農業水利実態調査書, 第一分冊 水系の概要 農業水利悉皆調査関連事業悉皆調査。
- 農林省農地局(1959)昭和34年度 矢作川水系 農業水利実態調査書, 第二分冊 農業水利個別調査(用水の部)。
- 農林省水産局(1930, 1931, 1933, 1934)河川漁業, 第一号, 第一号付録, 第二号, 第二号付録, 第四号, 第五号。
- 農林省農地局(1967)土地改良事業計画設計基準, 第3部設計, 第3編頭首工。
- 農林水産省構造改善局監(1997)土地改良施設管理基準, 頭首工編。
- 農商務省農務局(不明):水産事項特別調査。
- 小川 都(2003)矢作川とひとの暮らし 3.川辺の暮らしと環境利用, 4.写真でみる川辺の変化, 矢作川研究, 7: 131-155。
- 大島正弥・松浦正裕・内田臣一(2002)矢作川中流部における河床と水位の経年変化, 河川環境復元総合調査研究事業(矢作川古巣プロジェクト)平成13年度調査報告書。豊田市矢作川研究所。
- 社史編纂会議委員会(2001)時の遺産 付・目録 中部地方電気事業史料目録集。中部電力。愛知県。
- 滋賀県立琵琶湖博物館(1997)琵琶湖博物館開館までのあ

ゆみ。

- 杉浦裕幸(2002) 矢作川流域の古代の漁網錘, Rio, 53. 豊田市矢作川研究所.
- 「矢作川を語る」座談会事務局編(2003)「矢作川を語る」座談会記録集.
- 豊田市(1996) 豊田市矢作川環境整備計画概要版.
- 豊田市教育委員会・豊田市史編さん専門委員会(1977) 豊田市史四.
- 豊田市教育委員会・豊田市史編さん専門委員会(1978) 豊田市史三.
- 豊田市郷土資料館(2001) 豊田市の城下町展. 豊田市教育委員会.
- 豊田市郷土資料館編(2002) 川をめぐる暮らし. 豊田市教育委員会.
- 豊田市水道局(1976~2000) 昭和49年度~平成12年度版 豊田市水道事業年報.
- 豊田市矢作川研究所編(2002) 矢作川100年誌資料研究, 第1集. 豊田市矢作川研究所.
- 豊田市矢作川研究所編(2002) 矢作川研究, 6.
- 豊田市矢作川研究所編(2003) 東海豪雨・矢作川流域・記憶と記録. 豊田市矢作川研究所.
- 千葉徳治(1988) 民俗学方法論の諸問題. 東京堂出版.
- 渡辺 甲(1936) 矢作川笹戸発電所工事概要. 土木学会誌, 22-5. 土木学会.
- 矢作川沿岸水質保全対策協議会(1999) 矢作川, 清流への30年.
- 矢作川漁協100年史編集委員会編(2003) 環境漁協宣言 矢作川漁協100年史, 風媒社, 愛知.
- 「矢作川を語る」座談会事務局編, 豊田加茂建設事務所監(2003)「矢作川を語る」座談会記録集.
- 全国漁業組合連合会(1940) 全国漁業組合要覧.
- 全国湖沼河川養殖研究会(1923) 第六回全国湖沼河川水産養殖研究会要録. 秋田県.
- 全国湖沼河川養殖研究会(1928) 第十回全国湖沼河川養殖研究会要録. 福井県.
- 全国湖沼河川養殖研究会(1936) 第十七回全国湖沼河川養殖研究会要録. 富山県.
- 全国湖沼河川養殖研究会(1940) 第二十一回全国湖沼河川養殖研究会要録. 東京府.
- 全国湖沼河川養殖研究会(1949) 第22回全国湖沼河川養殖研究会要録. 長野県.

〔 豊田市矢作川研究所：〒471-0025 愛知県豊田市
西町2-19 豊田市職員会館1F 〕

